

大項目 1 - 中項目 1 - 小項目 1 計画 1 - 1

出典：シラバス 2007 京都大学工学部

地球工学科

廃棄物工学

30580

Solid Waste Management

【配当学年】3年後期

【担当者】(環保) 酒井、平井

【内 容】都市および産業の活動に伴って排出される廃棄物対策の基本として、廃棄物対策の階層性、個別の階層対策として、発生回避、再使用、再生利用、生物変換処理、熱変換処理、最終処分の各手法について講述する。廃棄物の定義と分類に関する関連法制度、性状を把握するための基礎的な事項、廃棄物管理計画や収集・運搬方法に関すること、各種の処理・処分方法とリサイクリングなどの廃棄物管理に関する技術・システムの基礎、廃棄物の処理・処分方法の基礎について講述する。

【授業計画】

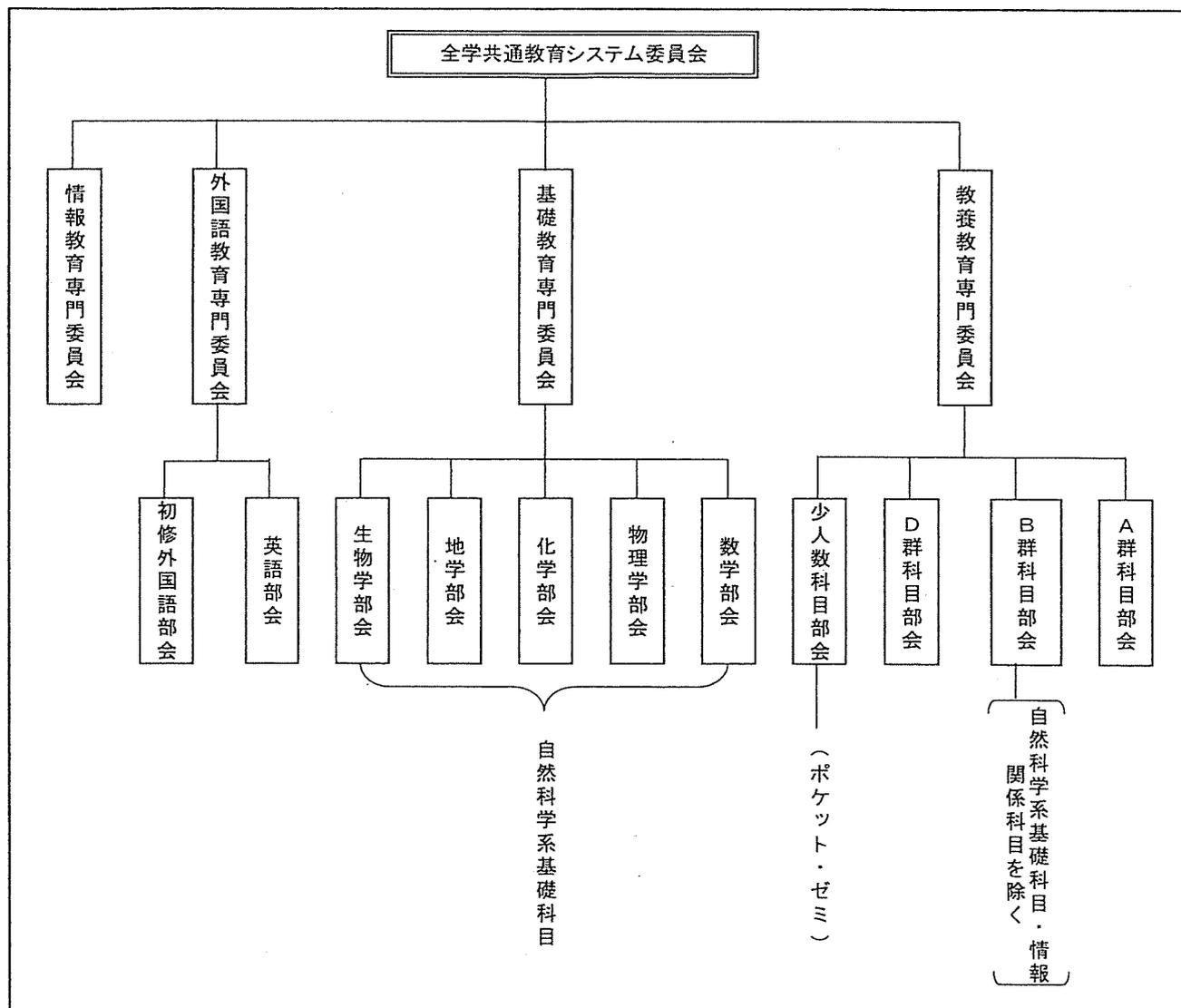
項 目	回 数	内 容 説 明
1. 廃棄物対策の基本としての階層性の考え方	1	階層的廃棄物対策として、発生回避、再使用、再生利用、適正処理、最終処分の考え方があり、この順で優先性を考えるべきこと、加えて総合性としてのインテグレーション手法を解説する。
2. 個別の階層的廃棄物対策手法	4	発生回避、再使用、再生利用、生物変換処理、熱変換処理、最終処分の各手法について、それぞれの便益と限界を意識しながら、講述する。各手法を構成する技術とシステム、日本と欧米の現状について紹介する。
3. 廃棄物の定義と分類に関する関連法制度、性状分析	1	廃棄物管理の目的・意義・現状と問題点、廃棄物の定義と分類等および関連法制度について述べる。これらの定義との関連で、都市廃棄物の性状データの解釈と性状分析の方法について考える。
4. 資源消費と廃棄物の発生	1	資源消費と廃棄物発生の関係について自然圏と人間圏における物質の動きという視点から解説する。資源消費の大きさを表す指標(直接資源投入量、隠れたフロー、エコロジカルフットプリント、環境容量)や、廃棄物の発生パターン分類、主要製品・資源の歩留まり・使用年数、ごみ量・ごみ質の変遷について講述する。
5. 廃棄物の排出と収集、処理費用の構造と支払い・徴収方法	2	主に都市ごみを対象として、自治体による分別収集、住民による集団回収、製造者・販売店による自主回収や下取り、中古店による買い取りなど、それらの排出・収集方法や廃棄物管理計画について述べる。また、廃棄物処理費用の内訳や処理費用の支払い・徴収方法について解説する。
6. 廃棄物処理に伴う環境負荷の評価と管理	2	廃棄物処理に伴う環境負荷の評価方法として、ライフサイクルアセスメント(LCA)およびリスクアセスメントの概要と適用例を紹介する。また、廃棄物処理に関する基準の設定根拠や有害性の判定手法について解説する。
7. 循環型社会へ向けた今後の課題と展望	1	アジア資源循環など最近のトピックや、廃棄物の排出抑制を目的とした生産段階での改良・社会システムの改善の方向性について述べる。

【教科書】指定しない。講義資料を用意し、必要に応じて研究論文等を配布する。

【その他】成績評価は、定期試験70%、レポート20%、出席10%を目安として、総合的に評価する。

大項目 1 - 中項目 1 - 小項目 1 計画 1 - 2

全学共通教育システム委員会組織図



大項目1 - 中項目1 - 小項目1 計画1 - 2

出典：「全学共通科目授業内容」（平成19年度）

通年・前期(B群)

群	期	対称学生	対称回数	科目名	曜時間	担当教員	コマ数	単位数	学部科目	備考	頁		
B	前	理系向	主として1回生	微分積分学A		クラス指定参照	2	4			159		
				線形代数学A		クラス指定参照	1	2			162		
				数学基礎A(理系)		クラス指定参照	2	4			164		
				数学基礎A(文系)		クラス指定参照	2	4			164		
				自然現象と数学		クラス指定参照	1	2			165		
				常気回路と微分方程式	火5	萩森 康仁 他	1	2	工学部		162		
			主として2回生	微分積分学総論A		クラス指定参照	1	2			168		
				線形代数学総論		クラス指定参照	1	2			163		
				複素論基礎		クラス指定参照	1	2			170		
				数値統計	金2	上木 清盛	1	2	クラス指定科目(医・薬学部)		170		
				微分積分学(閉教論)	火2	萩原 朋道 他	1	2	クラス指定科目(工学部(電気電子工学科))		171		
				微分積分学	火2	磯 祐介	1	2			171		
		全回生	微分積分学B(再履修)	月4・月5	小山 佳幸	2	4			161			
			線形代数学B(再履修)	火5	加藤 和也	1	2			161			
			微分積分学総論B(再履修)	木5	中内 賢次	1	2	医学部で同科目履修希望者を含む		169			
			現代の数学と数理解析 - 基礎概念とその諸科目への応用	金5	萩森 康仁 他	1	2			167			
			グラフ・ネットワーク	月1	藤原 信	1	2			172			
			集合と位相	月1	河野 明	1	2	理学部		172			
			数値計算の基礎	金4	磯 祐介 他	1	2			172			
			対称性の群論A	火5	柏原 正樹 他	1	2			173			
			多項式と計算機代数A	月2	丸山 正樹	1	2			173			
			非線形数学	月3	磯 祐介 他	1	2			174			
			人間と数学A	木5	今西 英器	1	2			175			
			文系向	主として2回生	数理論理学A	火2	高崎 金久	1	2		176		
		生活と数学A		月3	山岡 栄一	1	2			175			
		主として1,2回生		微分積分学入門A	火1	日比野 光宏	1	2		177			
		理系向	主として1回生	物理学基礎論A		クラス指定参照	1	2			178		
					月2	宮本 寛久	1	2			180		
				熱力学		火2	藤上 雅昭	1	2	クラス指定科目		180	
						木1	木下 俊哉	1	2			180	
						木2	木下 俊哉	1	2			180	
					物理学実験		クラス指定参照	2	2			181	
				初級物理学A		月2	手塚 哲夫	1	2			177	
						月3	市坪 哲	1	2			177	
				主として2回生	振動・波動論		火2	藤本 泰士	1	2			180
							木1	藤松 恒夫	1	2			180
							水2	藤本 泰士	1	2			180
							金1	前川 寛	1	2			180
					金2	前川 寛	1	2	クラス指定科目		180		
			電磁気学総論			クラス指定参照	1	2			182		
			力学総論	木3	田中 泰明	1	2	クラス指定科目		183			
			解析力学	木1	早田 次郎	1	2			184			
			全回生	核融合科学概論	水2	佐野 史彦 他	1	2			182		
				ビーム科学入門	集中	野田 章 他	1	2			182		
				光子科学概論	月3	中嶋 茂 他	1	2			186		
レーザー科学	集中			飯部 周二 他	1	2			186				
全学向	主として1回生			物理学概論A	火5	藤上 雅昭	1	2			188		
				プラズマ科学入門	火5	藤本 泰士 他	1	2			189		
	全回生		エネルギーを基礎とした先端科学の展望	火4	近藤 茂己 他	1	2	基礎エネルギー科学(物理編)を科目名変更		188			
			環境物理学	月4	前田 佳均	1	2			188			
		低濃科学A	水5	前野 悦輝 他	1	2			190				
		天体観測実習	集中	北井 礼三郎 他	2	2			180				
ナノテクノロジー入門	水2	酒井 明 他	1	2	ナノ・メゾ工学入門を科目名変更		189						
文系向	主として1,2回生	文系向け現代物理学	木2	吉川 研一	1	2		191					

大項目1－中項目1－小項目1 計画1－3

出典：京都大学ホームページ

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education/curriculum/guide/gaikoku.htm/>

語学学習システム等による外国語教育

外国語実習等では、外国人教師(英語:15名、ドイツ語:3名、フランス語:6名、中国語:15名、ロシア語:1名、スペイン語:2名、イタリア語:2名)による授業を行っています。

また、英語や仏語等では、2回生向けとしてコンピュータ支援型言語学習(CALL:Computer-Assisted Language Learning)のクラスを設けています。これは、最新教育システムを駆使して、個々の学生の能力にみあった徹底的な読解、作文、ヒアリング能力の総合的な向上を図るものです。学術情報メディアセンター南館内に語学実習CALL教室を展開していますが、CALLと呼ばれているコンピュータを利用した外国語の学習支援は、情報環境機構により運用されている語学学習システムで、コンピュータによる音声や画像などのマルチメディア処理技術を活かした外国語学習環境の構築を推進し、全学共通教育の外国語科目を中心に語学教育の支援活動を行っています。



CALL教室は、教員卓、学生卓(60台)、AVシステムからなるCALLシステムで構成されており、主に外国語の授業に利用されています。教員卓、学生卓にはネットワークにつながったPCに、ヘッドセットマイク、MDレコーダ、CCDカメラ(301教室)等の周辺機器や、DV、VHS、DVD、MD、Hi8などの各種メディアに対応するAVシステムが備えられており、マルチメディアを利用した外国語学習に適した環境となっています。また、コースウェア管理ソフトウェアが導入されており、教員が教員卓のヘッドフォンから学生のヘッドフォンへ直接話しかけることや、学生卓にビデオの映像を配信することなどが簡単な操作で行えるため、普通教室での授業よりも効率的な授業が可能になっています。



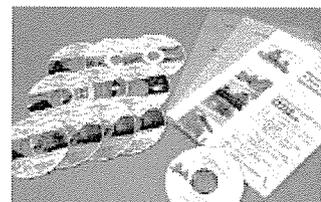
写真左より、CALL教室の学生用ブース、CALL教室の教員卓

CALL自律学習コーナー／CALL Learning Space

学術情報メディアセンター南館オープンスペースラボラトリー内には、「CALL自律学習コーナー」を展開しており、語学教材を自習できる端末を設置しています。CALL自律学習用端末では、センターで開発されたIntroduction to the Beauties of Kyotoを始め、本学教員が開発した英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語などの自律学習用外国語教材、またライセンス取得済みの市販教材の一部の学習をすることができ、学生にとっては必須の環境となっています。



また同じく語学の自習室として、吉田南総合館北棟2階に設けられた「CALL Learning Space」では、ヘッドセットとCALL授業(外国語教育参照)のテキストがインストールされたWindows自習用端末を20台、ティーチング・アシスタントの常時配置で学習を支援しています。



大項目 1 - 中項目 1 - 小項目 1 計画 1 - 3

出典：京都大学教育学研究科ホームページ



Moodle@京大教育

Graduate School of Education, Kyoto University

ログインしていません。(ログイン)
Japanese (ja_utf8)

ログイン

ユーザ名:

パスワード:

新しいアカウントを作成する
パスワードを忘れました?

メインメニュー

- サイトニュース
- 利用申請の手続き
- Moodle講習会資料(学内限定)

リンク

教育学研究科ホームページ

カリキュラムデザインデータベース(E.FORUM)

データベース@京大教育(教室予約&業績管理)

オンラインユーザ

(5分)
無し

Moodle利用に関するマニュアル

画面左のメインメニューからリンク(講習会資料)を辿ってください。

新規ユーザー登録について

ユーザー登録ページは学外からアクセスできません。

ファイルのアップロードについて

ファイル名に日本語は使えません。必ず半角英数字だけの名前に変えてからアップロードしてください。

こちらは京都大学大学院教育学研究科のMoodleサイトです。本研究科で開講している授業の一部について授業用ホームページを用意しています。その授業を受けている生徒は、担当教員から授業用ホームページへアクセスする方法を聞いてください。

また、本研究科のe-learningに関わる試みについても情報を集め掲載する予定です。ご期待下さい。

カレンダー

<< 2008年 06月 >>

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

フォーラム内を検索

検索オプション

コース一覧

学部授業

- メディア教育概論(2008)
- メディア教育概論(2007)
- 教育心理学コロキウムIA
- 英語(教育科学)

専門科目

- 教育情報学(2008)
- 教育情報学(2007)

大学院修士課程研究者養成 コース科目

- 心理データ解析演習(2007)
- 学習・思考論演習

その他

- ポートフォリオ(仮)
- GCOE報告書
- E.FORUM
- CT班
- SMILE for ME CwC利用講習会
- Moodle利用講習会(教師用)
- Moodle利用講習会(学生用)

http://lms.educ.kyoto-u.ac.jp/

大項目 1 - 中項目 1 - 小項目 1 計画 1 - 5

出典：京都大学ホームページ

<http://www.media.kyoto-u.ac.jp/cpt/result/index.html>

コンテンツ作成支援サービス

2005-2006年度の主な支援例

映像・CG系

- 京都大学 文学部「映像メディア論」実習支援
- 京都大学「未来フォーラム」映像データデジタル化
- 文部科学省研究振興局委託事業「知的資産の電子的な保存・活用を支援するソフトウェア技術基盤の構築」研究開発課題「ULANプロジェクト:ユビキタス環境下での高等教育機関向けコース管理システム」映像コンテンツ作成
- 京都大学 工学研究科「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」講義撮影, 映像編集, 遠隔講義用DVD作成
- 京都大学オープンコースウェア 掲載用映像コンテンツ作成
- システム制御情報学会 マルチメディアライブラリ 映像教材作成(作成協力)
- 先導的ITスペシャリスト育成推進プログラムビデオ教材作成(作成協力)

Webデザイン・グラフィックデザイン系

- 京都大学 公共政策大学院 Webサイト
- 京都大学 工学部 情報学科 Webサイト
- 京都大学 工学部 情報学科 計算機科学コース Webサイト
- 京都大学 総合人間学部・人間環境学研究科 Webサイト
- 京都大学 女性研究者支援センター Webサイト作成(作成協力)

- 京都大学 学術情報メディアセンター Webサイト
- 京都大学 情報環境機構 Webサイト
- 京都大学 情報環境機構 情報システム管理センター Webサイト作成
- 京都大学 学術情報メディアセンター図書室 Webサイトデザイン

- 京都大学 情報環境機構 パンフレット
- 京都大学 情報環境機構 遠隔講義支援サービス パンフレット
- 京都大学 情報環境機構 ホームページサービス パンフレット
- 京都大学 情報環境機構 学術情報ネットワークサービス パンフレット作成
- 京都大学 情報環境機構 情報システム管理センター パンフレット作成
- 京都大学 情報環境機構 情報システム管理センター ポスター作成
- 京都大学 情報環境機構 IDカードデザイン

- 京都大学情報環境機構 学術情報メディアセンター 情報環境フォーラム Webサイト作成, 予稿集表紙デザイン, ポスターデザイン, 発表用ポスター テンプレート
- 京都大学 学術情報メディアセンターシンポジウム・バイオメトリクス認証シンポジウム Webサイト作成, 予稿集作成, ポスターデザイン
- 2007 IEEE Automatic Speech Recognition and Understanding Workshopポスター作成
- 情報処理学会 組み込みソフトウェアシンポジウム論文誌表紙, Webサイト デザイン, ポスターデザイン
- 京都大学 附属図書館 企画展展示用キャプション デザイン・作成

大項目1-中項目1-小項目2 計画2-1、大項目1-中項目2-小項目2 計画2-1

出典：「平成19年度 便覧」（京都大学教育学部）

II. 専門科目

- 注1) 1は1回生のみ、2は2回生から、3は3回生から、4は4回生から履修可能
 注2) 講は講義、課は課題演習、読は講読演習、実は実習
 注3) 院は大学院と共用（3回生から履修可能）、教は教職科目と共用、他は他学部・他部局と共用、無印は学部専用科目
 注4) *を付した科目は本年度開講しない

科目名	科目コード	注1) 配当学年	注2) 授業形式	注3) 共用科目	担当教員	単 位 数	開講期	曜時 日限	教室	備 考	頁
【教育科学科】											
(1 回 生)											
教育研究入門Ⅰ	5008000	1	講		子辻高 安本見 増雅 生史茂	2	前期	火5	二講	1. 教育学部1回生を対象とする必修科目 2. 卒業要件の単位としては選択科目に数える	40
教育研究入門Ⅱ	5009000	1	講		欠染渡 野原逸 智知洋 司子	2	後期	火5	二講		40
情報学Ⅰ	5013000	1	講		西尾新	2	前期	木1	学術情報メディアセンター204室	1. 1回生推奨科目 2. 卒業要件の単位としては選択科目に数える	40
情報学Ⅱ	5014000	1	講		西尾新	2	後期	木1	学術情報メディアセンター204室		41
(3 回 生)											
教育情報学	5020000	3	講	院	中池竜一	2	前期	火2	学術情報メディアセンター204室		41
(2 回 生 以上)											
(現代教育基礎学系)											
教育原理Ⅰ	0003000	2	講	教	鈴木品子	2	前期	金2	法経四	来年度開講せず(隔年開講) 来年度開講するⅡをあわせて受講することが望ましい	42
*教育原理Ⅱ		2	講	教		2				本年度開講せず(隔年開講)	
民族と教育	0073000	2	講	教	駒込武均 杉本	2	後期	水3	二講		42
教育史概論Ⅰ	0133000	2	講		辻本雅史	2	前期	月2	320	日本・前近代	42
*教育史概論Ⅱ		2	講			2				本年度開講せず	
教育史概論Ⅲ	0137000	2	講		越水雄二	2	後期	月2	3演	西洋	43
教育史	0138000	2	講	他	小山静子	2	前期	水4	総合人間学部1B07	総合人間学部で開講「人間形成史論」	43
教育学基礎演習Ⅰ	0102000	2	課		鈴木品子	2	前期	金3	320	2, 3回生対象	43
教育学基礎演習Ⅱ	0103000	2	課		駒込武均	2	後期	金3	320	2, 3回生対象	44
教育学専門ゼミナールⅠ	0188000	3	課	院	鈴木品子	2	前期	水3,4	320	隔週	44

大項目1 - 中項目1 - 小項目2 計画2 - 2

出典：「平成18年度 学生便覧・授業計画」(京都大学農学部)

(科目名) 畜産技術論と実習Ⅰ (英訳) Practice in Livestock Production Techniques I	科目番号 対象学年	A204 2年
(担当署名) 北川 秋幸	開講期 単位数	前期集中 2
(科目内容) 肉用牛の繁殖・育成・肥育に関する飼養管理技術ならびに飼料作物の生産・加工・貯蔵技術などについて実習する。		
(授業計画) 1. 肉用牛の繁殖・哺育技術論 子牛生産のための繁殖と哺育育成技術を繁殖生理・栄養・衛生面から述べる。 2. 子牛生産・肥育技術論 牛肉生産コスト低減のための子牛・肥育牛の生産システム、生産技術を牛の発育理論に基づき論じる。 3. 粗飼料生産技術論 粗飼料の生産・加工・貯蔵の各技術と肉用牛経営での技術組立について論じる。 4. 農業機械操作実習 トラクターおよび各種作業機械の運転操作実習 5. 飼料作物栽培・収穫貯蔵実習 イタリアンライグラス、スーダングラスの収穫ならびに飼料用ソルゴーの作付け実習 6. 家畜繁殖・哺育・一般管理実習 雄牛の採精、雌牛の人工授精・直腸検査・超音波による妊娠判定、哺育・断乳、堆肥生産および飼料配合などに関する実習		
(成績評価の方法) 出席により評価する。		
(教材・その他) 講義はおもにOHPおよびスライドを用いて行い、必要に応じて資料を配布する。 実習は夏期休暇中に(今年は7月31日～8月4日を予定)、農学研究科附属牧場(京都府京丹波町)で行い、実習期間中は附属牧場構内にある宿泊施設を利用する。		

(科目名) 海洋生物科学技術論と実習Ⅰ (英訳) Practical Course in Marine Bioscience and Technology I	科目番号 対象学年	A205 2年
(担当署名) ○笠井 亮秀、豊原 治彦 他水産実験所各教員	開講期 単位数	前期集中 2単位
(科目内容) 海洋生物科学技術論と実習Ⅰは、夏期休暇中(8月後半の予定)に舞鶴(フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所)において開かれる。なお独立した実習科目である(Ⅱ)と(Ⅲ)も連続して舞鶴で開かれるため、全てを受けることも、いずれかを受けることも出来る。実習期間中は水産実験所の宿泊施設に合宿する。		
(授業計画) 舞鶴湾海洋調査 舞鶴湾内の多点において水温・塩分・光強度・流速などの基礎的な海洋調査を行う。得られたデータにもとづいてデータ解析の基礎を学び、淡水の流入する内湾の特性を理解する。 無脊椎動物幼生の分子遺伝学的手法による種同定 形態学的に類似しているため種同定が困難な二枚貝幼生を、PCRと制限酵素処理を組み合わせた分子遺伝学的手法を用いて同定する。 磯調査 岩礁海岸で潜水により海藻や磯の動物を採集し、実験室に持ち帰って観察・同定を行う。		
(成績評価の方法) 実習中の態度やレポートなどで評価する		
(教材・その他) 夏期休暇の直前に参加者の登録およびガイダンスを行うが、これには必ず出席しておくこと。		

(科目名) 海洋生物科学技術論と実習Ⅱ (英訳) Practical Course in Marine Bioscience and Technology II	科目番号 対象学年	A206 2年
(担当署名) ○笠井一郎、藤原建紀、中山邦至、水産実験所教員	開講期 単位数	前期 2
(科目内容) 夏期休暇中(今年度8月25日～31日の予定)に舞鶴市にある水産実験所において、プランクトン実習、除藻帯稚魚調査、海洋観測・底生生物調査等の実習を行う。舞鶴までの往復は基本的にスクールバスを用いる。また、期間中は水産実験所の宿泊施設に合宿する。		
(授業計画) プランクトン実習(笠井) 湖水中のプランクトン、特に赤潮原因プランクトンを含む植物プランクトンを中心に、生きたままの観察と種の同定を行い、多様な生物構成を学ぶ。 除藻帯稚魚調査(結田・中山・甲斐) 若狭湾西部各地の砂浜海岸除藻帯に夏期に出現する仔稚魚を桁網や曳き網を用いて採集し、それらの同定を行うとともに、採集地点間での出現種組成等の相違について物理環境と対応させて考察する。また、種の同定を通じて分類の基礎を学ぶ。 海洋観測・底生生物調査(山下・上野・甲斐) 調査船に乗船し、舞鶴湾および若狭湾西部海域(水深5mから200m)において水温、塩分等の海洋環境の測定を行い、観測機器の使用法を学ぶ。また、ソリネットを用いて底生動物を採集し、底生動物の観察と同定を行い群集構造解析の基礎を学ぶ。		
(成績評価の方法) 出席を前提とし、実習態度とレポート提出等を勘案して成績評価を行う。		
(教材・その他) 参考文献:日本海洋プランクトン図鑑、日本産稚魚図鑑 注意事項:夏期休暇の直前に参加者の登録およびガイダンスを行うが、これには必ず出席しておくこと。		

(科目名) 海洋生物科学技術論と実習Ⅲ (英訳) Practical Course in Marine Biosciences and Technology III	科目番号 対象学年	A207 2年
(担当署名) ○平田 幸、菅原達也、木下政人 水産実験所各教員	開講期 単位数	前期 1
(科目内容) 海洋生物科学技術論と実習Ⅲは、夏期休暇中(今年は8月24日～26日の予定)に舞鶴(フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所)において開かれる。なお独立した実習科目であるⅠとⅡも連続して舞鶴で開かれるため、全てを受けることも、いずれかを受けることも出来る。実習期間中は水産実験所の宿泊施設に合宿する。		
(授業計画) いくつかの海洋生物を捕獲し、抗酸化活性、抗菌性、抗血液凝固活性などを有する生理活性物質の抽出・精製・活性評価を実験室規模で行い、海洋生物の生化学資源としての大きな可能性を理解する。		
(成績評価の方法) 実習への取り組み姿勢、実習レポートを総合的に判断する。		
(教材・その他) 夏期休暇の直前に参加者の登録およびガイダンスを行うが、これには必ず出席しておくこと。		

大項目1－中項目1－小項目2 計画2－3、大項目1－中項目2－小項目5 計画5－6

各研究科等で雇用されているTA数

研究科等名	平成17年度				平成18年度					
	専門	共通	学術情報メディアセンター	計	専門	共通	学術情報メディアセンター	教職	KUINEP	計
文学研究科	35	8	6	49	36	6	-3		1	46
教育学研究科	61	6	8	75	74	14	5	15		108
法学研究科	13	5	5	23	7	2	3			12
経済学研究科	80	0	3	83	76	5	3			84
理学研究科	185	80	3	268	178	76	2			256
医学研究科	91	3		94	86	4				90
薬学研究科	157	21		178	164	16				180
工学研究科	577	74		651	601	79				680
農学研究科	282	18		300	292	20				312
人間・環境学研究科	128	193	9	330	125	195	7		4	331
エネルギー科学研究科	68	8		76	62	10				72
アジア・アフリカ地域研究研究科	24	4		28	17	4				21
情報学研究科	151	30	12	193	146	43	11			200
生命科学研究科	32	2		34	33	1	1			35
地球環境学舎・学堂	26	13		39	17	9				26
経営管理教育部				0	34	0				34
合計	1,910	465	46	2,421	1,948	484	35	15	5	2,487

※ KUINEP…京都大学国際教育プログラム (Kyoto University International Education Program)

大項目1-中項目1-小項目6 計画6-2、大項目1-中項目2-小項目7 計画7-1

専門職学位課程 教員数・実入学者数

	教員数				学生数				
	専任教員数	教授数(内数)	実務家教員(内数)	設置基準の定める必要教員数		平成19年度		平成18年度	
				専任	教授	入学定員	実入学者数	入学定員	実入学者数
専攻等	40	38	10	40	20	8	200	200	202
法学研究科 法曹養成専攻	22	9	6	15	8	5	24	24	32
医学研究科 社会健康医学系専攻	10	9	4	10	5	3	40	43	46
公共政策教育部	19	12	7	11	6	4	60	58	64
経営管理教育部									

大項目1－中項目1－小項目6 計画6－2、大項目1－中項目2－小項目7 計画7－1

出典：京都大学法科大学院ホームページ

教育課程

授業の形式

各科目の授業は、原則として、週1回90分で行われる。

また、法科大学院においては、少人数による密度の高い教育を行うことが基本であることから、授業形式については、双方向・多方向形式を中心として、科目の特質に応じて、講義形式や演習形式などが用いられる。実務選択科目については、実習を中心として、実務的な経験を積むにふさわしい授業時間及び形式が設定される。

また、各科目について、担当教員がオフィス・アワーを設け、個別の質問等を受ける時間を確保する（非常勤教員が担当する科目を除く）。

1. 双方向・多方向形式

基礎科目及び基幹科目のすべての授業、また選択科目I及び選択科目IIIにおいても各科目の特質に応じて用いられる形式である。50人から70人程度のクラスにおいて、学生の予習を前提に、教員が学生に様々な問題について質問し、学生がそれに答える形で授業が進められる。学生は、積極的に発言し、教員との間で、あるいは学生相互間での討論を通じて理解を深化させる。

2. 講義形式

選択科目I及び選択科目IIのうち、主として基本的な知識の習得を図る科目について用いられる形式である。授業は、教員の講義を中心として進められるが、従来とは異なり、教員が一方的に話すだけでなく、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図る。双方向・多方向形式との差異は相対的なものに過ぎず、指示された範囲についての予習など、学生の積極的な参加が必要となる。

3. 演習形式

選択科目I及び選択科目IIのうち、知識の理解をより深化させる科目、また、知識の応用能力などを涵養する科目について用いられる形式である。授業は30人程度までのクラスで実施され、参加者全員が討論に参加する形で進められる。事前に指示されたテーマについて学生がそれぞれ考えをまとめておいて討論を行う形態や、学生が自ら選択したテーマについて調査・検討した結果を報告して議論する形態などがある。

4. 実務選択科目の授業形式

実務選択科目のうち、エクスターンシップは、法律事務所などで研修を行うものであり、リーガル・クリニックは本法科大学院内において法律相談を行う形で実施する。いずれの場合にあっても、専任教員が実務経験豊かな弁護士の協力の下で指導にあたる。

その他の実務選択科目の授業は、いずれも30人程度までのクラスにおいて演習形式により実施し、適宜、ロール・プレイの技法などを取り入れ、教育効果の向上を図る。

大項目1－中項目1－小項目6 計画6－2、大項目1－中項目2－小項目7 計画7－1

出典：京都大学法科大学院ホームページ

教育課程

エクスターンシップ実施概要

I 目的

1・2年次に習得した知識をもとに、実践的活動を通じて、法的問題処理に当たっての事実認定能力、問題発見能力並びに顧客とのコミュニケーション能力等の向上をめざすとともに、学問的知識の充実・発展をめざす。また、実務家の日常的業務に触れることで、その社会的責任と倫理を自覚させ、将来における実務法曹としての活動への素地を作る。

II 研修内容

学生は、弁護士事務所へ赴き、弁護士指導の下で次のような活動を行う。

- ・ 顧客の同意を得て、顧客との協議・相談の場に臨席し、弁護士の指導・監督の下で発問を行い、また、討議を行う。
- ・ 弁護士が担当する事件の事実関係を整理したり、それに関する学説・判例を調査・整理する。
- ・ 弁護士が担当する事件に関し、法廷等の傍聴を行う。
- ・ その他

III 募集人数・実施期間・実施地区等

- (1) 受講学生の募集人数 100名程度(平成17年度は70名程度)
- (2) 実施時期 2年次後期試験終了後(70名程度、平成17年度は50名程度)および3年次前期試験終了後(30名程度、平成17年度は20名程度)
- (3) 実施期間 10日(80時間)(具体的な実施期間は申請時期に告示する。)
- (4) 実施地区 大阪・京都・名古屋・東京

IV 取得単位の取扱い

- (1) エクスターンシップに合格した場合、2単位を与える。
- (2) エクスターンシップは、2年次後期試験終了後実施分については3年次前期の授業として取り扱い、3年次前期試験終了後実施分については3年次後期の授業として取り扱う。

V 学生の受講資格

- (1) 法曹倫理の単位を取得していること。
- (2) 2年次後期試験終了後実施分については、3年次への進級要件を満たしていること。
- (3) 研修中における事故に備えて受講学生が研修先機関に対して負うべき損害賠償責任に関する責任保険に加入していること。
- (4) 事前の履修指導を受講したこと。
- (5) 法科大学院に対し、所定の誓約書の提出をしたこと。

VI 成績評価

- (1) エクスターンシップの研修を受けた学生は、研修期間終了後1週間以内に、次の書類をエクスターンシップ担当教員に提出する。
 - － 各日の研修開始・終了時間、研修地、研修内容等を記載し、研修指導者の確認を得た研修内容報告書

教育課程**リーガル・クリニック実施概要****I 目的**

実際の事件に関する法律相談を弁護士指導の下で学生が体験することを通じて、授業で習得した法律知識の実際の意義を確認させるとともに、面談技法の重要性を認識させ、さらには法曹の倫理や社会的責任を自覚させることで、教育課程から実務へのよりスムーズな移行を可能にする。

II 研修内容

初回にオリエンテーション等を行った後、相談及び討議・検討の組み合わせを合計6回行い、最終回に総括を行う(全14回)。具体的には以下の通りである。

(1) オリエンテーション等(第1回)

研修指導弁護士が、法律相談の意義、内容、実施方法、守秘義務・人権配慮義務の確認、実施面での留意事項の確認等に関するオリエンテーション並びに模擬法律相談(シミュレーション)を行う。

(2) 相談と討議・検討(第2回～第13回)

指導弁護士立会の下、少人数グループ(学生3名程度を1グループとする。)により相談を実施する。1回の授業では、1個の事件を扱う。

次の回の授業において、指導弁護士と受講学生が当該相談事例について理論面・実務面からの検討を行う。

(3) 総括(第14回)

実施した相談やそれに基づく討論を素材にして、相談技法等について総括を行うとともに、法曹の倫理や社会的責任に関して討論を行う。

III 募集人数・実施期間等

(1) 受講学生の募集人数 18名(火曜日実施分9名、木曜日実施分9名)

(2) 実施場所 法科大学院棟

(3) 実施時期・時間 通年(隔週)6時限目

IV 学生の受講資格

(1) 3年次在学者

(2) 法曹倫理の単位を取得していること

(3) 「学生教育研究災害傷害保険(学研災)付帯賠償責任保険 法科大学院生教育研究賠償責任保険(財団法人 日本国際教育支援協会)」に加入していること

(4) 所定の誓約書の提出

V 成績評価

(1) 受講者は、最終回の授業終了後1週間以内に、次の書類を提出する。

一 授業内容及び研修成果の達成度についての自己評価書

二 授業で体験したさまざまな法的問題のうちからテーマを選んで作成したレポート

(2) 成績は、リーガル・クリニック担当教員が、研修指導弁護士の作成する指導者報告書及び学生が提出する(1)の書類を基礎として、合否の形で判定を行う。

大項目1－中項目1－小項目6 計画6－2、大項目1－中項目2－小項目7 計画7－1

出典：京都大学ホームページ

京都大学法科大学院 リーガル・クリニック

1. 無料法律相談の実施日(平成18年度の予定) 平成18年

5月9日(火曜日)・5月11日(木曜日)

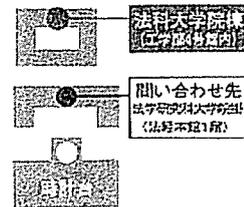
6月1日(木曜日)・6月6日(火曜日)

7月4日(火曜日)・7月6日(木曜日)

10月3日(火曜日)・10月12日(木曜日)

11月2日(木曜日)・11月7日(火曜日)

12月5日(火曜日)・12月7日(木曜日)



2. 無料法律相談の実施場所と時刻

■ 場所：京都大学法科大学院棟(右図参照)

■ 時刻：各曜日とも、午後6時15分から

3. 申込方法(書面による予約制)

相談を希望される方は所定の申込書^{様式}にご記入の上、希望日の2週間前までに、下記あてに郵送あるいはFAXにて送付しお申してください。(電話その他口頭でのお申込はお受けできません。)

折り返し担当者よりご連絡いたします。

4. お断り

■ 申込が多数となったとき等、ご希望に応じられない場合があることを、あらかじめご了承ください。

この場合には、相談に応じられなくなった方々から送付していただいた文書は、ご希望により返却もしくは廃棄いたします。

■ 次の事件については、相談の対象とすることができません。

1. 現在、裁判所にかかっている事件
2. 現に弁護士・司法書士などに対して委任がされている事件
3. 税金・税務に関する相談
4. 入管関係(在留資格・期間等)についての事件
5. 涉外家族関係についての事件
6. 刑事事件
7. その他、学生の教育目的として適さないと判断された事件

大項目1－中項目1－小項目6 計画6－2、大項目1－中項目2－小項目7 計画7－1

出典：京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻ホームページ

<http://www.mcrkyoto-u.jp/modules/tinyd0/>

コース概要

アドミッションポリシー

臨床研究者養成コース(Master of Clinical Research: MCR)は、医学研究科社会健康医学系専攻(School of Public Health: SPH)の特別コースで、医師、歯科医師を対象とした1年制のコースです。これまでわが国の医学研究は、主に生命科学研究に重点をおいてきましたが、同時に人間や人間集団を単位とした臨床研究を推進する必要があります。MCRは、この領域で活躍する研究者を育成するための、我が国で初めての本格的な教育課程です。自らの臨床経験に根ざしたリサーチクエスションにもとづいた臨床研究を志す方の応募を歓迎します。

学習達成目標

- 臨床研究を支える種々の基本理論、知識、実践スキルに習熟すること。
- 自分の臨床上の疑問に基づいた臨床研究を計画し、研究プロトコルの作成、研究の実施・マネジメント、得られたデータの基本的な解析処理、結果の解釈、論文にまとめる、などの一連の作業を独力でできる。
- 自分の臨床研究の計画・実施・解析・解釈の過程で生じる疑問について、適切な時期に、適切な専門家に、適切な内容のコンサルテーションができる。

MCR教育プログラムの特徴

- 集中的少人数制授業・実習
MCRは1年間の短期集中プログラムである。特に前期(4～7月)だけで所定の単位(30単位)の殆どを取得できるように、MCR必修科目(12科目26単位)の全てとMCR推奨選択科目(15科目)の多くを前期に集中させている。MCRでは、臨床研究の基本(理論、知識、方法、実践スキル)を体系的に学習できるよう、各科目間に連続性や有機的な関連性を持たせて全体のカリキュラムがデザインされている。さらに、社会健康医学系専攻ではMCR指定科目以外に多くの選択科目が提供されており、学生は自由にこれを履修することができる。なお、学生が入学前に取得した科目があり、既修得単位として認められれば履修が免除される(必要単位数の1/2以内)。
- 個別指導(メンタリング)の重視
入学前に学生本人とMCR担当教員で協議を行い、1～2名の指導教員(メンター)を決定する。メンターは、個々の学生の研究プロトコルの作成や既存のデータの二次解析の指導、および実際の研究計画実施上の指導を行なう。研究内容により、異なる領域の専門家2名がメンターとなることもある。MCR修了後も、双方の合意のもとに研究実施、解析、論文作成まで継続的に行なう。その際、博士生あるいは研究生などの身分で京大に在籍することが望ましい。
- 修了時の課題研究発表と試問
MCR修了時に、全ての学生は、自分のリサーチクエスションに基づく臨床研究プロトコルあるいはこれに替えて既存データの二次解析による論文を完成させ、発表会で試問を受け、合格する必要がある。なお専門職大学院のため、修士論文などは課さない。課題研究は必修科目である(4単位)。

課題研究テーマ一覧

The list of the subject research theme

2007年度

医療統計学

- マイクロアレイデータ解析におけるアウトカム関連遺伝子選択方法の提案
- 生存曲線が交差する状況での治療選択 - 生存期間に対する期待効用の差の推定
- 希少疾病用医薬品のための開発戦略 - 製造販売後調査の実施を前提とした試験計画 -

医療疫学

- 産後うつ傾向に対する二質問法の診断特性の評価

医療経済学

- 医療の経済波及効果

健康情報学

- 一般雑誌における糖尿病予防情報: 診療ガイドラインを基準とした内容評価
- 日本の診療ガイドラインの評価 - 利害衝突の開示状況を中心に -
- 小学5年生を対象とした喫煙に関する知識・意識・行動についての質問票調査
- 外来患者の薬物療法に対する姿勢と事故回避行動への認識: 尺度開発と両者の関連の検討
- Patient advocacyとメディアの役割: がん政策に関する新聞報道の検証
- "インフォームド・コンセント"を主題とした文献キーワード構成のネットワーク研究

環境衛生学

- ペルフルオロオクタンスルホン酸による発達毒性についての検討
- 全国フィールド調査によるフッ素テロマーアルコール類 (FTOHs) の大気中濃度の実態解明

予防医療学

- 関節リウマチ患者のインフリキシマブ治療効果予測に関する予備的研究

社会疫学

- エイズ関連新聞記事の内容分析 - 1984年から2006年までの報道内容の変遷 -

知的財産経営学

- 国立大学法人から出願される医薬関連特許の排他性に関する実証的研究
- 欧州バイオクラスターにおける中小ハイテクベンチャーの支援機関のクロス・ボーダー活動に関する事例研究
- 大学ファンドの資金源から見た類型化とその特徴について

遺伝カウンセラーコース

- 遺伝子診断研究の説明文書・同意書の書式作成の検討
- ゲノム・コホート研究参加への認識とその寄与因子の評価 - 地域住民を対象とした質問票調査 -
- 羊水検査の遺伝カウンセリングにおける質問票を用いた妊婦の理解・知識把握の試み ~ 説明文書および問診票の作成による臨床への還元まで ~

- 認定遺伝カウンセラー倫理綱領の検討

- ウイリアムス症候群における成長曲線の検討

臨床研究コーディネーターコース

- 研究倫理委員会の現状と改善策の提案 ~ 審査過程の調査及び委員、申請者の意識調査より ~
- CRCの患者対応の現状と患者から見たCRCに関する調査

臨床研究者養成コース

- COPD患者における診療過程の質とアウトカムとの関連についての研究
- 血液透析患者の貧血管理 - ヘモグロビン値の変動と生命予後の関連に注目して -
- 入院中に発症したClostridium difficile腸炎患者の診療パターンに関する研究
- 研修医の労働環境と心の健康についての探索的研究
- ヘルメットの安全性についての研究
- 標準的な新生児心肺蘇生法の導入による臨床的アウトカム評価
- 高齢経管栄養患者の誤嚥性肺炎に対する寒天固形化栄養剤の予防効果についてのランダム化比較試験 -Prevention of Aspiration Pneumonia with Agar Study (PAPA Study)-

大項目1-中項目1-小項目7 計画7-1、大項目1-中項目1-小項目9 計画9-2

出典：京都大学キャリアサポートセンター ホームページ
<https://career.gakusei.kyoto-u.ac.jp/>

 京都大学		京都大学キャリアサポートセンター 求人票検索システム								
<p>新着情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 就職ガイダンス 第4回 11月9日(金曜日)(2007年10月30日) ■ 本府省業務説明会 11月6日(火曜日)・7日(水曜日)11月20日(火曜日)(2007年10月30日) ■ パネルディスカッション第3回 11月12日(月曜日)(2007年10月30日) ■ 就職セミナー 京大生に求められる資質 予約受付中(2007年10月11日) ■ 京大サイコロセミナー 予約受付中(2007年10月09日) 										
<p>企業の皆様</p> <p>当サイトに求人票を掲載するには、 こちらの手順で企業登録を行ってください。</p> <p style="text-align: center;">企業様 新規登録</p> <p style="text-align: center;">企業専用ログイン</p> <p>企業ID <input style="width: 200px; height: 15px;" type="text"/></p> <p>パスワード <input style="width: 200px; height: 15px;" type="password"/></p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">ログインする</p> <p>初回ログインについて</p>	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <th colspan="2">当サイト登録企業数</th> </tr> <tr> <td>企業数</td> <td>753社</td> </tr> <tr> <td>求人票件数</td> <td>488件</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; font-size: small;">(2007年11月5日現在)</td> </tr> </table>	当サイト登録企業数		企業数	753社	求人票件数	488件	(2007年11月5日現在)		<p>京都大学在校生・卒業生の方</p> <p>大学配布のメールアドレスから 登録できます。</p> <p>学生・卒業生 新規登録</p> <p style="text-align: center;">学生・卒業生専用ログイン</p> <p>学生ID <input style="width: 200px; height: 15px;" type="text"/></p> <p>パスワード <input style="width: 200px; height: 15px;" type="password"/></p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">ログインする</p> <p>既卒業生の方へ</p>
当サイト登録企業数										
企業数	753社									
求人票件数	488件									
(2007年11月5日現在)										

大項目1－中項目1－小項目10 計画10－2、大項目1－中項目3－小項目4 計画4－2

出典：京都大学法科大学院 ホームページ

<http://lawschool.law.kyoto-u.ac.jp/>**修了者数**

年 度	修了者数
平成17年度	134名
平成18年度	189名
平成19年度	191名

新司法試験合格者

	出 願 者			受 験 者			合 格 者		
	合 計	未修者	既修者	合 計	未修者	既修者	合 計	未修者	既修者
平成18年	130	—	130	129	—	129	87	—	87
平成19年	228			211	41	170	135	17	118

新司法試験合格者の活動状況

	平成18年合格者
裁判官	17名
検察官	1名
弁護士	※
京都大学大学院 法学研究科助教	2名
京都大学大学院 法学研究科博士後期課程進学	3名
その他	
合 計	87名

※合格者のうち裁判官・検察官に任官していない者、および助教採用者・博士後期課程進学者以外の者の大部分は、弁護士登録を行っているが、正確な人数は把握できていない。

大項目1－中項目1－小項目10 計画10－2、大項目1－中項目3－小項目4 計画4－2

出典：「外部評価委員会評価報告書」（平成19年度 公共政策大学院）

平成19年度 2回就職状況生

1. 就職 2回生計41名

就職企業名	人数
国家公務員	6
地方公務員	2
独立行政法人等	5
民間会社等	11
合 計	24

2. 復職

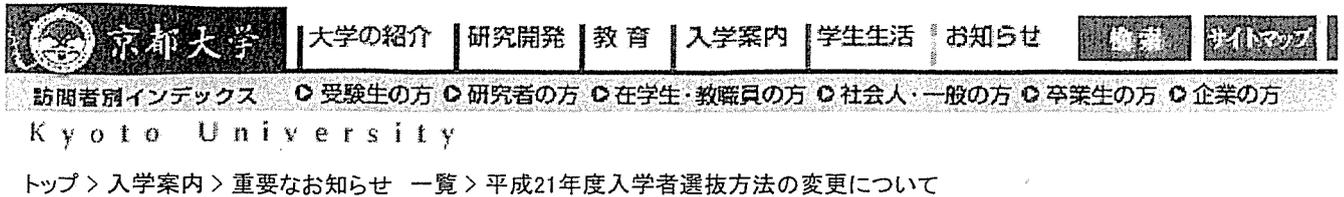
復職先名等	人数
国家公務員	4
地方公務員	1
そ の 他	2
合 計	7

3. その他

そ の 他	人数
休 学	1
博士後期課程進学予定	4
就職活動中	1
留年予定	4
合 計	10

大項目 1 - 中項目 2 - 小項目 1 計画 1 - 2

出典：京都大学ホームページ




[京都大学](#) | [大学の紹介](#) | [研究開発](#) | [教育](#) | [入学案内](#) | [学生生活](#) | [お知らせ](#) | [募集](#) | [サイトマップ](#)

[訪問者別インデックス](#) | [受験生の方](#) | [研究者の方](#) | [在学生・教職員の方](#) | [社会人・一般の方](#) | [卒業生の方](#) | [企業の方](#)

Kyoto University

トップ > 入学案内 > 重要なお知らせ 一覧 > 平成21年度入学者選抜方法の変更について

重要なお知らせ

◆平成21年度入学者選抜方法の変更について

京都大学では、平成21年度入学者選抜方法を次のとおり変更いたします。

○経済学部

- ・理系入試を新たに導入する。
- ・募集人員は、現行の論文入試の50名を論文入試25名、理系入試25名とする。

論文入試

- ・個別(第2次)学力検査で数学を廃止し、国語、外国語を課す。

理系入試

- ・大学入試センター試験で国語、地歴、公民、理科、数学、外国語を課す。
- ・個別(第2次)学力検査では、国語、数学、外国語を課す。

○工学部

- ・個別(第2次)学力検査で国語を課す。

○個別(第2次)学力検査の文系の数学において「数学C」を出題範囲から除く。

<資料> 平成21年度入学者選抜における学力検査の実施教科・科目について 

大項目 1 - 中項目 2 - 小項目 2 計画 2 - 4

出典：京都大学工学部ホームページ

<http://syllabus.kogaku.kyoto-u.ac.jp/syllabus/2007/31470.html>

Syllabus 31470

学外実習

Spot Training

31470: [PDF](#) / [JPEG](#) | [home](#) / [A](#) / [B](#) / [C](#) / [D](#) / [E](#) / [F](#) / [search](#)

[配当学年]

3年後期

[担当者]

担当教員

[内容]

社会基盤施設の整備に取り組む国、地方公共団体、公団、公社および各種民間企業などの諸機関において、構造工学、水工学、地盤工学、計画学、環境工学などの地球工学の方法論や考え方を、実際への適用例を通して習得させる。

[授業計画]

構造工学、水工学、地盤工学、計画学、環境工学に関わる実習（*回）

構造物の力学特性およびその合理的設計を実現する構造工学の方法論、水工構造物の設計の基礎となる水の力学および水文学、土・岩盤の特性および地盤構造物の設計の基本的考え方、各種社会資本整備を合理的に計画する方法論、環境工学の役割などを実際への適用例を通して習得させる。

[予備知識]

構造力学、水理学、土質力学、計画システム分析および基礎環境工学等の基礎科目を前提としている。

[その他]

当該年度の受入機関などに応じて実習内容を定める。

* 夏期休暇中の約1ヶ月間

大項目1 - 中項目2 - 小項目2 計画2 - 4

出典：「全学共通科目授業内容」(平成19年度)

(科目名) 偏見・差別・人権 (英 訳) Prejudice, Discrimination, and Human Rights	(群) A群 (単位数) 2単位 (開講期) 前期 (週コマ数) 1コマ (授業形態) 講義 (対象回生) 全回生 (対象学生) 全学向 (配時限) 水4
(所 属 部 局) (職 名) (氏 名) 医学研究科 教授 林 拓二 教育学研究科 教授 前平 泰志 教育学研究科 准教授 駒込 武 農学研究科 教授 新山 陽子 法学研究科 教授 高山 佳奈子 文学研究科 講師 白井 聡子 情報学研究科 教授 山本 章博 経営管理大学院 教授 末松 千尋 医学研究科 教授 櫻庭 繁 非常勤講師 脇中 洋	
(授業のテーマと目的) 人はみな生まれながらにして平等である、とされているにもかかわらず、人間社会には依然としてさまざまな偏見や差別が生きつづけている。この授業は、そうした偏見や差別の現実を明らかにし、それらを直視し、それらの根源を解明する作業を通じて、人権が真に実現される方法をさぐるようとするものである。全学の責任において開講され、本年度は文学部が運営担当部局となる。人権をめぐる論議は、とくに道徳・社会的な「かくあるべし」という規範の押しつけになりがちだが、この授業では、各教員それぞれその専門研究に根ざした独自の問題提起と考察とによって、具体的な現実を再発見し、受講者も講師もともにみずからの視線を新たにしていける喜びが共有できることを目指したい。	
(授業計画と内容) 1.2 同和問題 前平 泰志 教授 3 民族問題 駒込 武 准教授 4 精神障害者と人権 林 拓二 教授 5 民族問題 駒込 武 准教授 6.7 性差別問題 新山 陽子 教授 8 「人権主義」と刑法 高山 佳奈子 教授 9 多言語社会における少教派について 白井 聡子 講師 10.11 障がい問題 脇中 洋 非常勤講師 12 インターネットとプライバシー 山本 章博 教授 13 多様な社会の実現に向けて(オープンソースを事例として) 末松 千尋 教授 14 障害者のバリアフリーと人権 櫻庭 繁 教授	
(成績評価の方法) 試験および出席率による。	
偏見・差別・人権(2)へ続く↓↓↓	

(科目名) 偏見・差別・人権 (英 訳) Prejudice, Discrimination, and Human Rights	(群) A群 (単位数) 2単位 (開講期) 後期 (週コマ数) 1コマ (授業形態) 講義 (対象回生) 全回生 (対象学生) 全学向 (配時限) 水4
(所 属 部 局) (職 名) (氏 名) 医学研究科 教授 林 拓二 教育学研究科 教授 前平 泰志 文学研究科 教授 伊藤 公雄 農学研究科 准教授 秋津 元輝 人文科学研究科 教授 水野 直樹 人間・環境学研究科 教授 小山 静子 理学研究科 教授 七田 芳則 薬学研究科 教授 半田 哲郎 医学研究科 准教授 沼部 博直 人間・環境学研究科 准教授 岡 真理	
(授業のテーマと目的) 人はみな生まれながらにして平等である、とされているにもかかわらず、人間社会には依然としてさまざまな偏見や差別が生きつづけている。この授業は、そうした偏見や差別の現実を明らかにし、それらを直視し、それらの根源を解明する作業を通じて、人権が真に実現される方法をさぐるようとするものである。全学の責任において開講され、本年度は文学部が運営担当部局となる。人権をめぐる論議は、とくに道徳・社会的な「かくあるべし」という規範の押しつけになりがちだが、この授業では、各教員それぞれその専門研究に根ざした独自の問題提起と考察とによって、具体的な現実を再発見し、受講者も講師もともにみずからの視線を新たにしていける喜びが共有できることを目指したい。	
(授業計画と内容) 1.2 同和問題 前平 泰志 教授 3.4 性差別問題 伊藤 公雄 教授 5.6 環境問題 秋津 元輝 准教授 7.8 民族問題 水野 直樹 教授 9 ジェンダーからみた教育 小山 静子 教授 10 色覚異常のメカニズム 七田 芳則 教授 11 学生生活：個人を越えて 半田 哲郎 教授 12 精神障害者と人権 林 拓二 教授 13 医療と人権 沼部 博直 准教授 14 パレスチナ問題から考える人権 岡 真理 准教授	
(成績評価の方法) 試験および出席率による。	
偏見・差別・人権(2)へ続く↓↓↓	

偏見・差別・人権(2)
(コメント)
(関連URL) http://www.kyoto-u.ac.jp/douwa/
(履修要件) なし
(教科書) 未定 (参考書等) 附属図書館、総合人間学部図書館、医学部図書館、農学部図書館に関連書籍有り。

偏見・差別・人権(2)
(コメント)
(関連URL) http://www.kyoto-u.ac.jp/douwa/
(履修要件) なし
(教科書) 未定 (参考書等) 附属図書館、総合人間学部図書館、医学部図書館、農学部図書館に関連書籍有り。

大項目1-中項目2-小項目3 計画3-3、大項目1-中項目2-小項目5 計画5-4

平成18年度全学共通科目EX群科目

整理番号	科目番号	科目名	単位数	大学名	会場	開講期	開講期間
1	B008	梵字とマンダラ3A(特別講座1)	1	種智院大学	キャンパスプラザ京都	春学期	2006年4月11日(火)~7月25日(火)・5講時 18時20分~19時50分<毎週火>
2	B009	梵字とマンダラ3B(特別講座1)	1	種智院大学	キャンパスプラザ京都	秋学期	2006年9月26日(火)~2007年1月23日(火)・5講時 18時20分~19時50分<毎週火>
3	B095	梵字悉曇IA	1	種智院大学	種智院大学	春学期	2006年4月6日(木)~7月13日(木)・1講時 9時00分~10時30分<毎週木>
4	B096	梵字悉曇IB	1	種智院大学	種智院大学	秋学期	2006年9月28日(木)~2007年1月18日(木)・1講時 9時00分~10時30分<毎週木>
5	C003	実験映像の世界:メディアアートとしての映像	2	京都精華大学	キャンパスプラザ京都	後期	2006年9月27日(水)~2007年1月17日(水)・5講時 18時20分~19時50分<毎週水>
6	C051	情報デザイン専門研究1~映像作品の制作プロセスと撮影技法の基礎	2	大阪成蹊大学	大阪成蹊大学	後期	2006年10月5日(木)~2007年1月25日(木)・3講時 13時10分~14時40分<毎週木>
7	C058	メディアアート論I	2	京都嵯峨芸術大学	京都嵯峨芸術大学	前期	2006年4月13日(木)~7月13日(木)・2講時 10時30分~11時50分<毎週木>
8	C067	西洋美術史概説1	2	京都市立芸術大学	京都市立芸術大学	前期	2006年4月14日(金)~7月14日(金)・1講時 9時00分~10時30分<毎週金>
9	C068	西洋美術史概説2	2	京都市立芸術大学	京都市立芸術大学	後期	2006年10月6日(金)~2007年1月26日(金)・1講時 9時00分~10時30分<毎週金>
10	C069	デザイン史概説	2	京都市立芸術大学	京都市立芸術大学	前期	2006年4月12日(水)~7月12日(水)・2講時 10時40分~12時10分<毎週水>
11	C070	デザイン論	2	京都市立芸術大学	京都市立芸術大学	後期	2006年10月3日(火)~2007年1月30日(火)・2講時 10時40分~12時10分<毎週火>
12	C071	陶磁器工芸史1	2	京都市立芸術大学	京都市立芸術大学	前期	2006年4月14日(金)~7月14日(金)・2講時 10時40分~12時10分<毎週金>
13	C072	陶磁器工芸史2	2	京都市立芸術大学	京都市立芸術大学	後期	2006年10月6日(金)~2007年1月26日(金)・2講時 10時40分~12時10分<毎週金>
14	C075	日本美術史概説	2	京都市立芸術大学	京都市立芸術大学	前期	2006年4月12日(水)~7月12日(水)・1講時 9時00分~10時30分<毎週水>
15	C076	日本美術史(彫刻)1	2	京都市立芸術大学	京都市立芸術大学	前期	2006年4月13日(木)~7月13日(木)・1講時 9時00分~10時30分<毎週木>
16	C077	日本美術史(彫刻)2	2	京都市立芸術大学	京都市立芸術大学	後期	2006年10月5日(木)~2007年1月25日(木)・1講時 9時00分~10時30分<毎週木>
17	C079	写真史	2	京都精華大学	京都精華大学	前期	2006年4月14日(金)~7月21日(金)・1講時 9時00分~10時30分<毎週金>
18	C080	写真論	2	京都精華大学	京都精華大学	後期	2006年9月21日(木)~2007年1月18日(木)・3講時 13時00分~14時30分<毎週木>
19	C084	舞台芸術論Ⅲ「日本芸能史」	2	京都造形芸術大学	京都造形芸術大学 京都芸術劇場「春秋座」	前期	2006年4月11日(火)~7月18日(火)・5講時 16時10分~17時30分<毎週火>
20	C085	舞台芸術論Ⅳ「日本芸能史」	2	京都造形芸術大学	京都造形芸術大学 京都芸術劇場「春秋座」	後期	2006年9月26日(火)~2007年1月16日(火)・5講時 16時10分~17時30分<毎週火>

注意:開講時間帯は各大学により異なりますので注意してください。

平成18年度単位互換提供科目(前期分)

科目番号	科目名	担当教員・職氏名		開講期間 前期・期中・ 後期・通年	曜日・講時		講義室
					曜日	講時	
H065	生態科学	助教授	奥田 昇	前期	月	1	吉田南構内・吉田南1号館・共B02
F055	人文研アカデミー:身体論のすすめside-A	教授	大浦 康介	前期	月	2	吉田南構内・吉田南1号館・共313
F059	人間健康科学概論	教授	笹田 昌幸	前期	月	2	吉田南構内・吉田南総合館・共北27
H055	英語講義:現代物理学	助教授	青谷 正妥	前期	月	2	本部構内・国際交流センター講義室
D051	日本文学基礎論	助教授	須田 千里	前期	月	3	吉田南構内・吉田南1号館・共B02
F052	健康科学	助教授	林 達也	前期	火	1	吉田南構内・吉田南4号館・4共30
F054	宗教心理学	教授	C. ベッカー	前期	火	2	吉田南構内・吉田南1号館・共B02
H061	温度生物学概論:生物と温度との関わりについて -分子から行動まで-	教授	梅田 真郷	前期	火	2	吉田南構内・吉田南総合館・共北25
H064	数理論理学A	教授	高崎 金久	前期	火	2	吉田南構内・吉田南総合館・共西21
G051	教育評価の基礎I	教授	大塚 雄作	前期	火	3	吉田南構内・吉田南1号館・共311
H051	遺伝子の分子生物学 I	教授	岡 穆宏	前期	火	5	吉田南構内・吉田南1号館・共B02
F057	生活習慣と生体機能障害	助教授	林 達也	前期	水	2	吉田南構内・吉田南総合館・共北27
H068	放射性同位元素と放射線の取扱入門	助教授	倉橋 和義	前期	水	2	医学部構内・放射性同位元素総合センター 講義室
J052	現代人類学基礎論	教授	田中 雅一	前期	水	3	吉田南構内・吉田南総合館・共南11
H062	自然災害科学I	助教授	向川 均	前期	木	2	吉田南構内・吉田南総合館・共東23
I052	環境化学概論A	教授	山本 行男	前期	木	3	吉田南構内・吉田南総合館・共北25
H053	宇宙の誕生から現在まで	教授	小山 勝二	前期	金	2	北部構内・理学部6号館・201
H067	脊椎動物の形づくり	教授	山中 伸弥	前期	金	2	吉田南構内・吉田南総合館・共北32
C056	映像芸術論A	助教授	加藤 幹郎	前期	金	5	吉田南構内・吉田南総合館・共北28
F051	救急蘇生法入門	教授	平出 教	前期集中			未定

大学コンソーシアム単位互換制度受講者数等調

年 度	他大学へ提供			本学から他大学へ受講	
	提供科目数 科目	受講希望者数 名	受講許可者数 名	科目数 科目	受講者数 名
平成17年度	1	766	766	本学からの受講認めず	
平成18年度	47	620	389	9	37
平成19年度	35	590	335	7	21
平成20年度					
平成21年度					

大項目 1 - 中項目 2 - 小項目 5 計画 5 - 2

出典:「情報環境機構・学術情報メディアセンター年報-自己点検評価報告書-(2006年度 京都大学)

68

第 1 章 2006 年度のサービス業務



学術情報メディアセンター北館遠隔会議室から話す講師の様子。手前に並んだ PC 上で動かしている DVTS で映像を中継している。



インドネシア・ネパール・バングラディッシュの各大学、及び慶應大学、京都大学が継っている様子が分かる。

図 1.26: SOI Asia Project での遠隔講義の様子

1.6.3.1 国際遠隔講義

SOI Asia Project

2006 年 11 月 29 日、SOI Asia Project (WIDE プロジェクト/代表: 慶應義塾大学村井純教授 が推進する研究プロジェクトの一つ) において企画・実施された講義: 2006 SOI Asia Disaster Management Course - Latest Science and Technology for prediction and mitigation 1. Tsunami phenomena and disaster の支援を行った。5 回目を担当する京都大学防災研究所の牧紀男助教授による講義 “Long-term recovery after natural disaster” をアジア地域に向け配信すべく、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスとの間を DVTS で結んで講義の中継を実施した。(図 1.26)

国立台湾大学との国際遠隔講義

国立台湾大学 (NTU) との国際遠隔講義が後期に 2 科目開講された。講師や教室の映像配信にはビデオ会議システム (Polycom VS4000) を利用した。また、教材提示には画面共有ソフトウェア VNC を利用し、双方の学生が同じ画面を双方の PC で見ることができるようにした。なお、「分子細胞生物学 500」の受講生 8 名が 12 月に国立台湾大学を訪問し、同じ講義の国立台湾大学の受講生と交流した。

国際連携による地球・環境科学教育 (マラヤ大・清華大)

2004 年度より、文部科学省現代的教育ニーズ支援プログラム (2004~2006 年度) の補助を受けて、「国際連携による地球・環境科学教育プロジェクト」が行われている。これは、京都大学・マラヤ大学 (マレーシア)・清華大学 (中国) の 3 大学 (3ヶ国) 間で同時進行型遠隔講義を行うプロジェクトである。このプロジェクトでは、2006 年度までに遠隔講義環境とコンテンツを整え、それ以後は継続的に遠隔講義を行う計画となっている。アジア各国間のネットワーク事情と今後の拡張性を考え、講義を録画したアーカイブに講師と学生の対面コミュニケーションを織り混ぜた講義形式 (ハイブリット型 e-Learning) を採用している。

2006 年度は、大学院工学研究科向け講義「新環境工学特論 I, II」を実施し、本プログラムの可能性を確認した。更に、2007 年 3 月 9 日に行われたシンポジウムでは、本プロジェクトを総括すると共に、2007 年 4 月~2012 年 3 月の 5 年間、国際遠隔講義の協力関係 (内容的には上記プロジェクトと同様) を延長する旨の合意を 3 大学間で執り行った。(図 1.27)

大項目1-中項目2-小項目5 計画5-3、大項目1-中項目2-小項目6 計画6-5

出典：「情報環境機構・学術情報メディアセンター年報-自己点検評価報告書-」（2006年度 京都大学）

学内遠隔講義

期間, 回数	講義名	講師	場所
前期, 13回	デジタル通信工学	吉田進	吉田電気, 桂電気
前期, 13回	マイクロ波応用工学	橋本弘蔵, 篠原真毅	吉田電気, 桂電気, 宇治
前期, 13回	電磁界シミュレーション	大村善浩, 臼井英之	吉田電気, 桂電気, 宇治
前期, 13回	集積回路工学特論	小野寺秀俊	吉田電気, 桂電気
前期, 12回	電気電子基板技術の展望	オムニバス方式	吉田電気, 桂電気, 宇治
後期, 13回	宇宙電波工学	松本紘, 小嶋浩嗣	吉田電気, 桂電気, 宇治
後期, 13回	情報メディア工学特論	小山田耕二, 中村裕一	吉田電気, 桂電気
前期, 13回	人類と放射線	オムニバス方式	学情メ南館 201, 原子炉実験所
後期, 13回	生体機能工学	小林哲生, 濱田昌司	吉田電気, 桂電気
後期, 13回	工学倫理	オムニバス方式	吉田電気, 桂電気
後期, 4回	水理学及び演習	後藤仁志	工学部3号館西棟 W3 講義室, C1 棟遠隔講義室

吉田電気：電気総合館中講義室, 桂電気：桂電気, 宇治：生存圏研究所遠隔講義室

国内会議・研究会

開催日	題目/内容	主催/世話人	場所
2006.4.20- 2007.2.15, 8回	視覚研究に関する最新の話題についての若手研究者を中心とした講演会	芦田 宏	学情メ南館 201
2006.5.31 2006.6.8	研修会（教育著作権セミナー） 京都大学化学物質管理システム（Kucrs）説明・講習会	関係事務局 環境安全保健機構	学情メ南館 201 学情メ南館 201, 202
2006.7.6 2006.8.31, 9.1	全国安全週間に伴う安全講習会 遠隔会議	環境安全保健機構 正司哲朗	学情メ南館 201 学情メ南館セミナー室
2006.9.4 2006.9.8 2006.10.6	研究打ち合わせ eラーニングと個人情報 インタラクショナルデザイン入門 セミナー	森幹彦 関係事務局 関係事務局	学情メ南館セミナー室 学情メ南館 202 学情メ南館 202
2006.11.1 2006.11.17 2006.11.17, 12.14 2006.11.27	研究プロジェクト打ち合わせ WIDE 研究打ち合わせ SCS 活用セミナー（大学教職員のための国立大学法人会計セミナー） SCS 活用セミナー（大学教職員のための知的財産セミナー）	牧淳人, 延原章平 中村素典 関係事務局 関係事務局	学情メ北館 102 学情メ北館 102 学情メ南館 202 学情メ南館 202
2007.1.11 2007.1.18	CKP 研究打ち合わせ 大学教職員のための施設マネジメントセミナー	中村素典 関係事務局	学情メ北館 102 学情メ南館 202
2007.1.19, 1.31	「大学教職員のための労務セミナー」	関係事務局	学情メ南館 202
2007.2.28	科学研究費 特定領域研究 代表者会議（代表者 松山隆司）	松山隆司	学情メ南館 201
2007.3.16 2007.3.16 2007.3.28	電子情報通信学会特集号編集委員会 安全衛生教育 平成17年度 SCS 事業連絡協議会	中村素典 環境安全保健機構 美濃尊彦	Tandberg MCU の予約 学情メ南館 201, 202 学情メ南館 202

学内会議・研究会

開催日	題目/内容	主催/世話人	場所
2006.4.28, 7.14, 8.22 2006年度, 9回	Sui2 研究会	正司哲朗	学情メ南館セミナー室
2005.06.07	エネルギー科学研究科基礎科学専攻の専攻会議・教室会議 京都大学スベース・コラボレーション・システム事業委員会	エネルギー科学研究科 SCS 事業委員会	学情メ南館 201, エネルギー理工学研究所, 原子炉実験所 学情メ南館 201, エネルギー理工学研究所, 原子炉実験所, 霊長類研究所

大項目1—中項目2—小項目5 計画5—3、大項目1—中項目2—小項目6 計画6—5

出典：「Annual Report FY 2006 平成18年度活動報告」（京都大学大学院理学研究科
附属地球熱学研究施設）

<特別セミナー>

平成18年(2006年)

6月16日 新井田清信(北海道大学)

上部マントルにおけるマグマの通路(ダナイト-クロミタイトチャネルの起源)

(1)ダナイト-クロミタイトチャネルの形態・組織と結晶作用

(2)靱帯かんらん岩体の層状構造とダナイトチャネルの観察

7月11日 藤井俊行(京大原子炉)

Nuclearfield vs. nucleosynthetic effects as cause of isotopic anomalies in the early Solar System

12月14日 大出茂(琉球大学)

サンゴ礁のなごい跡:ストロンチウム同位体を使った珊瑚・ポーリングコアの年代測定—海面変動と海洋プレートの沈降・隆起の歴史—

平成19年(2007年)

1月11日 佐野有司教授(東大海洋研)

ヘリウム同位体比とテクトニクス

1月15日 Marie Python(金沢大学)

海洋底上部マントルでの火成活動と熱水作用:オマーンオフィオリイトの例

(Magmatism and hydrothermalism in the oceanic upper mantle: Example of the Oman Ophiolite)

1月31日 山崎徹(北海道大学)

海洋地殻の構成と地殻内プロセスの岩石学的・地球化学的実態

<京都ゼミ> 北白川4号館1階会議室

(テレビ会議システムを用い別府・阿蘇セミナー室で放送)

平成18年(2006年)

4月28日 岡田靖章:合同大会ポスターセッション発表練習

4月28日 小森省吾:合同大会ポスターセッション発表練習

5月12日 三根崇彦:土壌CO₂ガス原産を主軸とした、火山・地熱地域における地質構造—流体力学相互作用についての研究—別府地域を例として—

5月26日 岡本啓:九州地方中南部のスラブ内地震について

6月2日 田中良和:空中磁気測量による火山性磁場変動の検出

6月9日 巖山恒臣:マグマの貫入/噴出比と火山活動の多様性

6月16日 岡田靖章:九重火山の見かけ比抵抗と位相の特徴

6月23日 小森省吾:雲仙火山北東部における熱水の移動

6月30日 大倉敬宏:阿蘇火山における長周期微動

7月7日 竹村恵二:九州の第四紀テクトニクス

10月6日 小森省吾:雲仙火山北東部における浅部比抵抗構造と熱水の流れ

10月13日 岡田靖章:九重硫黄山周辺の浅部比抵抗構造について—進捗状況—

10月13日 小森省吾:雲仙火山北東部における浅部比抵抗構造と熱水の流れ

10月20日 小森省吾:雲仙火山北東部における浅部比抵抗構造と熱水の流れ

10月20日 岡本啓:九州地方中南部のスラブ内地震について—進捗状況—

10月27日 岡田靖章:九重火山における浅部比抵抗構造(2)

11月10日 岡田靖章:九重火山における浅部比抵抗構造(2)

11月17日 三根崇彦:CO₂ガスフラックスによる、地熱活動の評価について—別府地域を例として—

12月15日 巖山恒臣:浅間火山の2004年噴火に学ぶ

平成19年(2007年)

1月26日 熊谷仁孝:分子動力学計算を用いたNaCl水溶液の観察

2月9日 岡本啓:九州地方中南部におけるフィリピン海スラブ内地震

2月9日 岡田靖章:九重火山における浅部比抵抗構造の推定

2月9日 小森省吾:火山体浅部における比抵抗構造と熱水

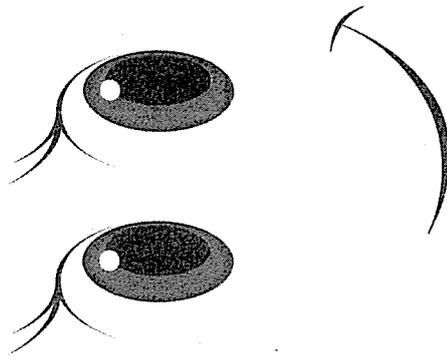
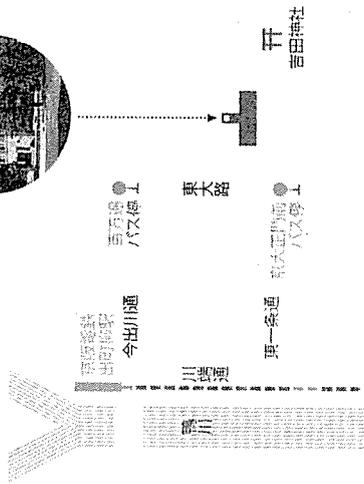
大項目 1 - 中項目 2 - 小項目 5 計画 5 - 5

出典：「自己点検・評価報告書 2006」（京都大学国際交流センター）

京都大学留学フェア2005

2005年11月4日[金] (参加自由)

京都大学留学フェア2005
2005年11月4日[金] 12:20-18:00
参加自由
会場：京都大学百周年時計台記念館



世界をひろげる「せじゅく」祭

海外留学
のススメ

他大学の方も
参加できます。

- 参加対象：学部生、大学院生
- 事前の申し込みの必要はありません。当日 12:20 より開かれる
オリエンテーションにご参加ください。
- 内容：本学の留学プログラムの紹介/世界各地の留学情報/イン
ターンシップ留学・ボランティア留学・語学研修案内/留学のため
の奨学金、語学試験の情報提供など
- 主催：京都大学
- 協力：アメリカ大使館商務部、オーストラリア政府国際教育機構、
オランダ王国大使館、カナダ大使館、関西日仏学館、国際教育交換
協議会 (CIEE)、在大阪中国総領事館、スウェーデン大使館、ドイツ
学術交流会 (DAAD)、日韓友好協会、日本イタリヤ京都会議、日本
学生支援機構、ニュージーランド大使館商務部、ブリティッシュ・
カウンシル、メキシコ大使館、京都大学生活協同組合、アイセック
京都大学委員会、京都大学エアステア学内委員会

●お問合せ：京都大学留学生課 TEL.075-753-2546

ホームページで最新情報を Check してね！

<http://www.kyoto-u.ac.jp>

「留学ってどうすればいいの？」 にお答えします。

誰もが興味をもつ「海外留学」。でも、いざ自分が留学するとなると不安ばかりが先立ってしまうんじゃないでしょうか？「授業についていけないのか」「卒業がおくれるんじゃないか」「海外の生活習慣に慣れることができず」「お金がかかりそう」などなど…

「京都大学留学フェア」では、あなたのそのような疑問に対し、実際に留学を体験した先輩や、アメリカ・アジア・ヨーロッパなど世界のさまざまな地域の留学の専門家が答えすとともに、短期間の「語学研修」から、単位を取得できる「交換留学」、世界に飛び込む「ボランティア留学」、「インターンシップ留学」、そしてキャリアを身につける「大学院留学」など、さまざまな「留学のかたち」をご紹介します。

さらに、留学に必要な、「語学試験準備の情報」や、留学のための「奨学金の情報」もお答えします。

とりあえず海外の大学へ行ってみよう！という方から、キャリアプランとして留学を考えている方まで、どなたでも大歓迎です。

世界をひろげる「はじめの一步」を踏み出してください！

※他大学の方もお気軽にご参加ください。

大項目 1 - 中項目 2 - 小項目 5 計画 5 - 5

出典：「京都大学概要 2007」、「京都大学概要 2008」

■ 大学間学生交流協定校への派遣実績一覧

(平成 18 年度)

国・地域	大学名	人数
大韓民国	ソウル大学校	1
シンガポール共和国	シンガポール国立大学	2
カナダ	トロント大学	1
	ケベック州大学学長校長協議会	3
アメリカ合衆国	ジョージワシントン大学	1
	ハワイ大学	2
オーストリア共和国	ウィーン大学	2
フランス共和国	ストラスブール大学連合	5
	グルノーブル大学連合	4
ドイツ連邦共和国	ボン大学	1
	ハイデルベルク大学	1
	フンボルト大学	1
オランダ王国	ライデン大学	2
	ユトレヒト大学	3
スウェーデン王国	ウプサラ大学	2
スイス連邦	ローザンヌ大学	2
英国	サセックス大学	2
オーストラリア連邦	ニューサウスウェールズ大学	1
	シドニー大学	2
ニュージーランド	オークランド大学	1
計(13カ国・地域)	17大学3大学群	39

■ 大学間学生交流協定校への派遣実績一覧

(平成 19 年度)

国・地域	大学名	人数
中華人民共和国	香港科技大学	1
タイ王国	カセサート大学	1
	チュラロンコン大学	1
台湾	国立台湾大学	1
カナダ	トロント大学	2
	ケベック州大学学長校長協議会	2
アメリカ合衆国	ジョージワシントン大学	1
	ハワイ大学	2
	ペンシルベニア大学	2
オーストリア共和国	ウィーン大学	1
ベルギー王国	ルーバンカトリック大学	2
フランス共和国	ストラスブール大学連合	5
	グルノーブル大学連合	3
ドイツ連邦共和国	ベルリン自由大学	1
	ミュンヘン大学	1
	ボン大学	1
	フンボルト大学	2
オランダ王国	ライデン大学	1
	ユトレヒト大学	3
スウェーデン王国	ウプサラ大学	1
	ストックホルム大学	2
スイス連邦	ローザンヌ大学	2
オーストラリア連邦	シドニー大学	1
13カ国・地域	20大学3大学群	39

大項目 1 - 中項目 2 - 小項目 8 計画 8 - 1

出典：京都大学高等教育研究開発推進機構ホームページ



京都大学高等教育研究開発推進機構

Institute for the Promotion of Excellence in Higher Education



Information

「成績評価についての異議申し立て制度」実施について

高等教育研究開発推進機構では、今年度より全学共通科目の「成績評価についての異議申し立て制度」を実施します。この制度の実施に伴い、KULASISに前期履修科目の採点結果を掲載しますので、次の期間にアクセスして各自の採点結果を確認してください。

なお、成績評価についての異議申し立てを行う場合は、KULASIS(採点確認画面)に掲載している「成績評価に関する異議申し立て書」をメールで送信、または共通教育教務掛窓口で直接申し出てください。

また、当該期の成績評価について異議を申し立てることができるのは、次の場合に限りです。ただし、成績評価の理由や根拠についての申し立ては受け付けられません。

- ① 成績の誤記入等、明らかに担当教員の誤りと思われるもの
- ② シラバス等により周知している成績評価の方法から、明らかに評価方法等について疑義があると思われるもの

● KULASISでの採点結果確認期間

8月28日(月)から31日(木)の8時30分から17時30分

● 成績評価についての異議申し立て受付期間

8月28日(月)8時30分から31日(木)17時30分

(直接、共通教育教務掛窓口で申し出る場合は、窓口対応の時間)

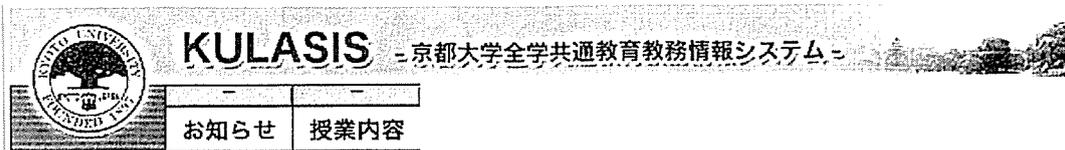
大項目1 - 中項目2 - 小項目8 計画8 - 4

出典：京都大学学位規程（第2～16条）

- 第2条 本学大学院の課程(京都大学通則(昭和28年達示第3号。以下「通則」という。)第53条の2の専門職学位課程を除く。)の修了による学位の授与を受けようとする者は、所定の学位論文審査願に学位論文及び論文目録を添えて、当該研究科長に提出するものとする。ただし、博士の学位の授与を受けようとするときは、更に履歴書を添えなければならない。
- 2 通則第55条第2項の規定により修士の学位の授与を受けようとする者は、所定の学位論文審査願に修士論文及び論文目録を添えて、当該研究科長に提出するものとする。
(昭34達9・昭51達30・平4達5改・平9達10加・平12達15・平14達38改・平16達122改)
(平18達39・一部改正)
- 第3条 前条によらないで博士の学位の授与を申請する者は、所定の学位申請書に学位論文、論文目録、履歴書及び学位論文審査手数料を添えて、総長に提出するものとする。
- 2 前項の学位論文審査手数料の額は、京都大学における学生納付金に関する規程(平成16年達示第63号)第7条に定める額とする。
- 3 受理した学位論文審査手数料は、返還しない。
(昭34達9・昭51達30改・平4達63加・平13達17改・平16達122改)
- 第4条 第2条の学位論文審査願及び前条の学位申請書を受理したときは、総長又は研究科長は、これを当該教授会又は研究科会議(地球環境学舎にあつては学会会議。以下同じ。)に付託するものとする。
(昭51達30本条加・平14達38改・平16達122改)
- 第5条 学位論文(修士論文又は博士論文)は1編とし、修士論文は1通、博士論文は3通を提出しなければならない。ただし、参考として他の論文を添えることができる。
- 2 審査のため必要があるときは、教授会又は研究科会議は、学位論文の副本、訳本、模型又は標本等の材料を提出させることができる。
(昭51達30改・平16達122改)
- 第6条 教授会又は研究科会議は、当該教授会又は研究科会議を構成する教授の中から調査委員3名を選定して、論文又はその調査及び試験(以下この条において「論文の調査等」という。)を行わせる。
- 2 前項の規定にかかわらず、教授会又は研究科会議で必要があると認めるときは、2名以内に限り、当該教授会又は研究科会議を構成する教授以外の本学教員をもつて調査委員に充てることことができる。ただし、当該研究科以外の教員は、1名以内に限るものとする。
- 3 教授会又は研究科会議で必要があると認めるときは、第1項の委員を増し、又は論文の調査等の一部を調査委員以外の本学教員に委嘱することができる。また特に必要があると認めるときは、論文の調査等の一部を他の大学の大学院、研究所等の教員等に委嘱することができる。
- 4 教授会又は研究科会議で特に必要があると認めるときは、第1項及び第2項に定める調査委員のほか、他の大学の大学院、研究所等の教員等を1名以内に限り調査委員に加えることができる。
(昭34達9・昭51達30改・平7達31加・改・削・平9達10削・改・加・平14達38改・平16達122改)
(平17達70・平18達39・一部改正)
- 第7条 第3条の規定により学位を申請した者については、別に、必要な学識の確認のため、試問を行う。
- 2 試問の方法は、当該研究科の定めるところによる。
(昭51達30本条加)
- 第8条 調査委員は、論文の調査及び試験並びに試問が終わつたときは、学位論文の内容の要旨、調査及び試験の結果の要旨並びに試問の成績を教授会又は研究科会議に文書をもつて報告するものとする。ただし、修士論文の内容の要旨、調査及び試験の結果の要旨は、省略することができる。
(昭51達30旧7条下・改・平16達122改)
- 第9条 修士、博士、修士(専門職)又は法務博士(専門職)の学位授与の議決は、当該教授会又は研究科会議を構成する教授の3分の2以上が出席して、その3分の2以上が賛成しなければならない。
- 2 前項の規定にかかわらず、前項の学位授与の議決には、当該研究科の定めるところにより、准教授を加えることができる。この場合における学位授与の議決は、前項の教授及び当該准教授の3分の2以上が出席して、その3分の2以上が賛成しなければならない。
(昭51達30旧8条下・改・平4達5改・平16達122・平17達145改)
(平18達70・一部改正)
- 第10条 教授会又は研究科会議において、学位を授与できるものと議決したときは、当該研究科長は、学位論文及び論文内容の要旨にその審査及び試験の結果の要旨並びに試問の成績を添えて総長に報告しなければならない。ただし、修士、修士(専門職)及び法務博士(専門職)の学位授与に係るものは、別に定める必要事項を記載した資格者の名簿による。
- 2 教授会又は研究科会議において博士の学位を授与できないものと議決したときは、その旨を報告するものとする。
(昭51達30旧9条下・改・平16達122・平17達145改)
- 第11条 修士論文の審査及び試験は、在学期間中に行われるものとする。
- 2 博士論文の審査及び試験並びに学識の確認は、論文受理後1年以内に終わるものとする。ただし、当該研究科において特別の事由があると認めるときは、その期間を1年以内に限り延長することができる。
(昭51達30本条加・平12達15改・平16達122削)
- 第12条 総長は、修士、博士、修士(専門職)又は法務博士(専門職)の学位を授与できると認められた者に対し学位記を授与し、学位を授与できない者に対しては、その旨を本人に通知する。
(昭34達9加・昭51達30旧10条下・平4達5・平17達145改)
- 第13条 学位を授与したときは、総長は、学位簿に登録し、博士の学位の授与については、これを文部科学大臣に報告するものとする。
(昭51達30旧11条下・改・平13達33改)
- 第14条 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に当該学位論文の全文又はやむを得ない事由がある場合には、その内容の主要部分を印刷公表するものとする。
(昭51達30本条加)
- 第15条 修士、博士、修士(専門職)又は法務博士(専門職)の学位を授与された者が、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、総長は、当該教授会又は研究科会議の議及び教育研究評議会の議を経て学位の授与を取り消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。
- 2 前条の規定に違反したときは、前項の規定によることことができる。
- 3 教授会、研究科会議及び教育研究評議会において、前各項の議決をする場合は、構成員の3分の2以上が出席して、その4分の3以上が同意しなければならない。
(昭34達22旧10条下・昭51達30旧12条下・改・平4達5改・平16達122・平17達145改)
- 第16条 学位記及び学位授与関係書類の様式は、別表のとおりとする。
(昭34達22旧12条下・昭51達30旧13条下・改)

大項目 1 - 中項目 3 - 小項目 1 計画 1 - 3

出典：KULASIS（京都大学全学共通教育教務情報システム）



KULASIS 京都大学全学共通教育教務情報システム

お知らせ	授業内容
------	------

◆ 授業内容

前の10件 1 2 3 4 5 6 次の10件

[検索結果に戻る](#)

[▲ 前へ](#) [次へ ▼](#)

授業の進捗状況や受講生の習熟度などによって「授業計画と内容」、「成績評価の方法」が変更になる場合があります。

(科目名) 科学英語(医学) (英訳) Scientific English	(群) C群 (単位数) 2単位 (開講期) 通年 (週コマ数) 1コマ (授業形態) 講義 (対象回生) 2回生以上 (対象学生) 理系向 (曜時限) 月1 (教室) 医学部A棟103・107セミナー室
(所属部局) (職名) (氏名) 非常勤講師 ジェフ・バーグランド	

(授業のテーマと目的)

This course is primarily designed to improve the English aural comprehension and oral communication skills of Japanese students. There will be work in simple medical terminology and communication skills that are necessary for a doctor when talking with non-Japanese patients. Students will acquire listening and verbalization skills as well as gain confidence in their ability to deal with patients in English. Students will also learn how to discuss basic biology issues. There will be a little study about the basic communication problems between doctors and patients.

(授業計画と内容)

Attaining fluency in any language requires the development of four basic skills: reading, writing, listening, and speaking. We will use a textbook (which requires reading and some writing), but the focus of the class will be on the development of aural comprehension and oral communication skills. Each class will begin with simple warm-up exercises that get the students "thinking" and speaking in English. Students will be asked to raise their hands and answer questions during class. Each correct answer will be awarded one point. These points will be added to the first and second semester final tests. This is to encourage students to really feel and act as native English speakers do. There will be role playing between students (one as doctor and one as patient) as well as role playing between students and teacher (teacher playing the role of patient). Prints from a basic (high school) biology textbook will be handed out each week and there will be short tests about the content of the prints. The content of the prints will also be tested in the first and second semester exams.

(成績評価の方法)

Final tests of 100 points each will be given both first and second semester. Class participation points will be added or subtracted from the test scores, plus points for active class participation and minus points for absence or tardiness. The scores of short tests will also be averaged and added to test scores.

[検索結果に戻る](#)

[▲ 前へ](#) [次へ ▼](#)

授業の進捗状況や受講生の習熟度などによって「授業計画と内容」、「成績評価の方法」が変更になる場合があります。

(科目名) 科学英語(農学)A (英訳) English for Agricultural Science A			(群) C群 (単位数) 1単位 (開講期) 前期 (週コマ数) 1コマ (授業形態) 講義
(所属部局)	(職名)	(氏名)	(対象回生) 2回生以上 (対象学生) 理系向 (曜時限) 火1 (教室) 共北3C
農学研究科	准教授	赤松 美紀	
	非常勤講師	Gwyn A. Helverson	
(授業のテーマと目的) 将来、農学研究を目指す学生にとって、科学英語の重要性はますます増加している。そこで、英語による学会での発表、専門書の読解など、専門課程で必要な英語の基礎を習得することを目的とする。			
(授業計画と内容) 以下の項目を中心に授業を行う。前期は科学英語の基礎を重視する。 1. 科学論文を題材とし、論文形式の英語の特徴を学び、読解力をつける。 2. 国際学会での英語による資料の準備の仕方、発表の仕方について、解説する。 3. 科学に関するテーマを選択し、その内容について資料の準備および授業中に英語による発表を行う。なお、講義は、英語を母国語とする非常勤講師により英語で行われる。			
(成績評価の方法) 出席率・英語による発表・授業中の小試験・レポート試験などに基づき評価する。詳細は第1回目の授業で説明する。			
(コメント) 農学部2回生のクラス指定科目(必修科目)。他の学生については、各クラスの定員に余裕がある場合に限り受講を許可する。			
(履修要件) 後期[科学英語(農学)B]を連続して履修すること。			
(教科書) 未定。授業の中でプリントを配付する。			
(参考書等) なし。			

前の10件 1 2 3 4 5 6 次の10件

大項目1 - 中項目3 - 小項目1 計画1 - 4

平成19年2月

平成18年度職員研修

種 別	時 期	対 象 者	目 的	受講者数
新採用職員研修	4月4日～4月10日	新採用職員	大学職員の使命と心構えを自覚させるとともに、新採用職員として共通する業務遂行に必要な基礎知識を修得させる。	36名
	9月4日～9月8日			25名
新採用職員実務研修	4月11日～4月28日	新採用事務職員	新規採用職員に対し、京都大学の現状、課題、将来構想、各部が所掌する業務等について研修する。	14名
	9月11日～9月29日			16名
部課長級研修	5月25日～5月26日	新任及び在任2年程度の部課長級職員	新任部課長等に対して、大学の現状、課題等の全体像を教授し、大学運営における部課長等として求められている役割、責務を自覚させるとともに、目標達成に必要な企画力、管理能力、ハラスメント、メンタルヘルス対策などの考え方やスキルを習得させる。	21名
リーダーシップ研修	7月5日～7月7日	掛長、専門職員級	新任掛長等に対して、大学の現状、課題、将来構想等の全体像を教授し、大学運営の重要な担い手(リーダー)として求められている役割、責務を自覚させるとともに、目標達成に必要な企画力、管理能力、コミュニケーションスキル、問題解決力、部下育成(OJT)などの考え方やスキルを習得させる。	36名
労働法連続講座	11月15日、22日、29日	人事事務を担当して3年未満の事務職員	人事事務を担当する職員に労働法に関する基本知識を身につけさせることを目的とする。	64名
グループ長研修	1月23日～1月24日	本部のグループ長	グループ長に対して、大学運営におけるグループ長として求められている役割、責務を自覚させるとともに、目標達成に必要な企画力、管理能力などの考え方やスキルを習得させる。	20名
	1月29日～1月30日			25名
自己啓発支援				
・通信教育・eラーニング	7月1日～2月28日	本学職員	高い専門的知識・技能を職員自らが自立的・自主的にそれらを習得することができるよう支援することを目的とする。(受講料の半額負担：2万円を限度)	218名
・放送大学	10月～3月	同上	同上(受講料の半額負担：1万円を限度)	5名
民間派遣研修 (オムロン株式会社経営企画室経理師)	H19.1月5日～1月30日	中堅職員	民間の業務を実際に体験させることにより、民間の機動的、能動的な業務の進め方、発想方法を取得させ、職員の資質、能力の向上を図ることを目的とする。	1名 (財務部)

種 別	時 期	対 象 者	目 的	受講者数	
文部科学省等派遣研修					
・文部科学省関係機関職員行政実務研修	4月～3月	事務系職員	文部科学省における行政の実務を経験させることにより、当該職員の視野の拡大等を図り、もって文部科学省関係機関の職員の人材育成に寄与する。	25名	
・文部科学省関係機関職員国際業務研修	同上	同上	文部科学省国際関係課における国際関係業務の行政実務を経験させるとともに語学研修の機会を設けることにより、当該職員が国際関係業務を遂行する上で必要となる広い見識と高度の実務能力、並びに語学力の育成を図り、もって文部科学省関係機関の職員の人材育成に寄与する。	1名	
・日本学術振興会国際学術交流研修	同上	同上	日本学術振興会における国内実務研修、海外実務研修及び語学研修を実施することにより、国際交流に関する幅広い見識と高度の実務能力を有する専門的な職員の養成を図り、もって大学等における国際化の推進を図り、国際交流業務の充実に資する。	1名	
総合技術部研修					
・技術職員研修(総合研修)	11月21日～11月22日	教室系技術職員	教室系技術職員に対し、職務に必要な高度の専門的知識及び技術等を修得させ、資質の向上と応用能力の開発を図る。	22名、14名	
・技術職員研修(専門研修)					
○第1専門技術群(工作・運転系)	9月11日、1月26日				約50名
○第2専門技術群(システム・計測系)	3月13日				約40名
○第3専門技術群(物質・材料系)	3月15日				約20名
○第4専門技術群(生物・生体系)	3月16日				40名
○第5専門技術群(核・放射線系)	2月22日～2月23日				約40名
○第6専門技術群(情報系)	3月14日				
国立大学協会主催研修					
・国立大学法人総合損害保険研修会	5月31日、12月11日	大学保険担当者	総合損害保険に関する理解を深めるとともにリスクマネジメントに関する基本的な知識の取得を図る。	2名、2名	
・国立大学法人等部長級研修	7月20日～7月21日	部長級職員	大学運営の基本的知識の取得と幹部職員としての能力の向上を図る。	3名	
・国立大学法人等課長級研修	8月8日～8月9日	課長級職員	同上	3名	
・大学マネジメントセミナー 【企画・戦略編】	10月2日～10月3日	役員・幹部職員	大学運営全般に関わる基本的知識の取得とマネジメント能力の向上を図る。	2名	
・大学マネジメントセミナー 【研究編】【教育編】	11月21日、11月22日	役員、副学長、部長、事務代表者等	大学運営のうち教育、研究に関わる基本的知識の取得とマネジメント能力の向上を図る。	8名、5名	

大項目1—中項目3—小項目1 計画1—5、大項目3—中項目1—小項目2 計画2—6

平成18年度全学共通教育に係る新入生向けガイダンス実施要領

1. 日程

時間帯：各日とも13時30分～16時20分（午前中は健康診断）

	4共11(254)	4共21(258)	4共30(376)	4共31(237)	計
4月4日(火)	文学部(220)	経済学部(240)	法学部(330)	教育学部(60) 総合人間学部(120)	970
4月5日(水)	工学部 物理(235)	工学部 工業化学(235)	工学部(265) 地球(185) 建築(80)	工学部(220) 電気電子(130) 情報(90)	955
4月6日(木)	医学部(243)	薬学部(80) 農学部(164) 資源生物(94) 食品生物(33) 地域環境(37)	理学部(301)	農学部(136) 森林科学(57) 応用生命(47) 食料・環境(32)	924

2. 実施方法

- ・4号館4教室同時中継システムを使用。
- ・4共31教室をメインスタジオとし、①～④について他の3教室に映像、音声を送信する。
- ・⑤は各教室個別の対応のため、4教室に教職員を配置する。
- ・⑥⑦で再度メインスタジオ（4共31）から説明を行う。
- ・⑧は各教室個別対応

3. プログラム

- ① 13:30～13:45 本学における教養教育の理念について
- ② 13:45～14:15 全学共通科目についてのガイダンス
- ③ 14:15～14:30 事務手続きについて
- ④ 14:30～14:45 学生・教員教育交流会について
- ⑤ 14:45～14:50 質疑及び新入生アンケート
- ⑥ 14:50～15:10 学生支援について
- ⑦ 15:10～15:40 図書館の利用について
- ⑧ 15:40～16:20 京大生協の利用について

4. 当日配布資料

1) 全学共通教育関係

- ・全学共通科目履修の手引き
- ・全学共通科目授業内容
- ・新入生向け少人数セミナー冊子
- ・共通教育通信
- ・文系学生向けB群科目について（文系学部のみ・4/4 1,000部）
- ・KULASISの案内
- ・アンケート用紙

2) オリエンテーション関係

- ・学生便覧
- ・附属図書館利用案内
- ・海外留学の手引き
- ・健康指南書
- ・学生・教員教育交流会について
- ・京大生協からの案内
- ・ハラスメントの防止と解決のために

大項目1—中項目3—小項目1 計画1—5、大項目3—中項目1—小項目2 計画2—6

出典：京都大学オープンキャンパス 2006 プログラム

京都大学を目ざすみなさんへ

京都大学総長
尾池 和夫

京都大学は、学問をおさめて21世紀の世界で活躍することをこころざす、あらゆる人びとを受け入れ、そのこころざしの実現の場を提供します。そのために、学習に安心して励むことのできる快適なキャンパスを実現するよう努力を続けています。

大学では、蓄えられた知識と知恵を受けつぐために学習を深めます。その上に大学ではさらに新しい知識をくわえていくための研究が、文字通り昼夜をわかつた進められています。京都大学に入学した学生のみなさんには、このような大学での活動に参加していただくこととなります。そのため、学生としての生活の基盤をしっかりとため、心身を鍛え、バランスのよい感覚を身につけ、立派な社会人として通用する人になって巣立って行くまで、京都大学が学生のみなさんの活動の場となるよう、支援しながらみなさんの成長を見守っていきます。

吉田キャンパスの北と東西に高さのそろった山地があつて、3方を山に囲まれた盆地にこのキャンパスがあります。豊富な地下水をたくわえ、それによって世界の人びとの集まってくる古都の文化をはぐくんできた京都盆地で、京都大学は地域との連携のもとにその文化を世界に発信しています。22000人の学生たちの一員となり、入学式を迎える4月には、哲学の道のある琵琶湖疏水に沿って桜が満開になり、入学式の前後には、多くの課外活動の先輩たちがみなさんに入部を勧めることでしょう。秋には最高に美しい紅葉が、世界遺産の京都盆地をつつみます。京都大学に来た1200名の留学生もそれを楽しみにしています。

京都大学は、最近も中国科学技術大学、韓国科学技術院、香港科技大学、台湾大学、南京大学との間に学術交流協定を結びました。全国でもっとも多く国際交流協定を持つ大学の利点を活かして、2005年4月からは国際交流推進機構を設置し、留学や国際交流を推進しています。外国人学者による集中講義や特別講義を活用したカリキュラムを編成します。外国の大学とのリアルタイムの双方向遠隔講義をおこないます。

国立大学法人京都大学が京都大学を設置し、国からの運営費交付金で教育と研究が行われています。豊かな教養と人間性、さらには強固な責任感と高い倫理性を涵養し、国際的視野とコミュニケーション能力を備えた人材を育成する、という目標に向かって、多くの整備が着々と行われています。基礎研究をはじめとするさまざまな学術研究を推進するとともに、社会や経済の変化に対応することのできる幅の広い視野と総合的な判断力をそなえた人材を育てることが京都大学の目ざす目標です。

京都大学の基本理念には、「京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。」また、「京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。」とあります。この京都大学への入学を目ざして、大いに学習を深めてほしいと願っています。

大項目1-中項目3-小項目1 計画1-6、大項目2-中項目2-小項目8 計画8-8

出典：京都大学ホームページ

■ 外部資金等

寄附講座等

(平成19年5月1日現在)

部局名	名称
経済学研究科	金融・証券システム(大和証券グループ)講座 探索臨床腫瘍学講座
医学研究科	免疫ゲノム医学講座 臓器機能保存学講座 集学的がん診療学講座 創薬神経科学講座
薬学研究科	医薬品理論設計学講座 ナノバイオ医薬創成科学講座
工学研究科	日中環境技術研究講座 エネルギー資源開発工学(JAPEX)講座 産業微生物学講座
農学研究科	「味の素」食の未来戦略講座 食と農の安全・倫理論講座
地球環境学堂	森川里海連環学(ベネッセコーポレーション)分野 企業金融(みずほ証券)講座
経営管理研究部	ベンチャーキャピタル/プライベートエクイティ論(三菱UFJキャピタル)講座 京セラ経営哲学寄附講座 関西経済経営論(関西アーバン銀行)講座
再生医科学研究所	組織分化制御学研究部門
経済研究所	応用金融工学(野村証券グループ)研究部門 教育経済学寄附研究部門
霊長類研究所	比較認知発達(ベネッセコーポレーション)研究部門

大項目1-中項目3-小項目2 計画2-4、大項目1-中項目3-小項目3 計画3-2

出典：京都大学附属図書館ホームページ

http://www3.kulib.kyoto-u.ac.jp/guide/jpn/guide_jp_mediacommons.html

メディア・コモン

メディア・コモンは附属図書館3階にあり、音楽や映画鑑賞、語学学習などができる施設です。総ガラス張り、時計台の向こうには吉田山・大文字山が一望できる明るい快適な空間で、防音設備を施したメディア・シアターも完備しています。どうぞご利用ください！



メディアコモンの写真をもっと見る

利用時間

平日 9:00-21:30 土日祝 10:00-16:30 開館カレンダー

利用について

DVD・CD・カセットテープ・ビデオに対応した多目的視聴覚ブース32席と、50インチプラズマディスプレイを2台設置しています。クラシックを中心にCD4800余枚、映画やドキュメンタリーのDVD、ビデオテープ、各国語の学習ビデオテープや音声テープを用意しています。ヘッドホンは機器と共に置いてありますので自由に利用できます。

- 防音装置を施したメディア・シアター室(10席)は、グループでご利用ください。1Fカウンターで一週間前から予約を受付けます。
- 利用は学内の方に限り、また1回につき3時間と限定させていただきます。

大項目 1 - 中項目 3 - 小項目 3 計画 3 - 1

出典：京都大学ホームページ

◆キャンパスミーティングとは (2005年11月9日付)

これまでから京都大学に対する種々の質問や意見等をメールやアンケートで聞いていますが、総長と学生が直接話をする機会は今までありませんでした。

そこで、総長と学生が顔を見ながら直接懇談し、そこで出された学生の皆さんの意見や要望などを今後の大学運営に役立てるためにキャンパスミーティングを始めました。

キャンパスミーティングは、定期的に、総長、厚生補導担当副学長及び関係研究科長が出席して、各研究科・学部単位で開催しています。



第10回	工学研究科	2006年2月17日
第9回	人間・環境学研究科・総合人間学部	2005年12月9日
第8回	薬学研究科・薬学部	2005年11月15日
第7回	医学研究科・医学部	2005年10月26日
第6回	エネルギー科学研究科	2005年9月21日
第5回	経済学研究科・経済学部	2005年6月7日
第4回	理学研究科・理学部	2005年2月9日
第3回	法学研究科・法学部	2004年12月17日
第2回	教育学研究科・教育学部	2004年10月27日
第1回	文学研究科・文学部	2004年6月30日

大項目 1 - 中項目 3 - 小項目 5 計画 5 - 1

出典：京都大学総合博物館ホームページ

<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/museumF/materials.html/nature.html>

収蔵資料

文化史 自然史 技術史

自然史収蔵資料

- 動物標本
 - 哺乳類
 - 鳥類
 - 爬虫類
 - 両生類
 - 魚類 ---> (魚類標本一覧へ)
 - 貝類 ---> (貝類標本一覧へ)
 - 昆虫類 ---> (昆虫類標本一覧へ)
 - 人類学
 - その他の動物標本
- 植物標本
 - さく葉標本 ---> (さく葉標本一覧へ)
 - 陸上植物
 - 海草
 - パケット標本 ---> (パケット標本一覧へ)
 - 苔類
 - せん苔地衣類
 - コムギ穂標本
 - 材幹標本
 - その他の植物標本
- 菌類標本
 - 植物病害標本
 - 菌類乾燥標本
 - 菌類液浸標本
 - その他の菌類標本
- 地質標本
 - 化石標本 ---> (化石標本一覧へ)
 - 岩石標本
 - 鉱石標本

大項目 1 - 中項目 3 - 小項目 5 計画 5 - 1

出典：京都大学オープンコースウェアホームページ

<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/jp/human/index.htm>

KYOTO-UOPENCOURSEWARE
KYOTO UNIVERSITY OPEN COURSEWARE PROJECT

日本語版

アクセスできる授業リスト

講義一覧 (図書分類法)

[HOME](#) [総合人間学部](#)

総合人間学部

・学科

総合人間学部

文学部

教育学部

法学部

経済学部

理学部

医学部

薬学部

工学部

農学部

全学共通科目

文学研究科

教育学研究科

法学研究科

経済学研究科

理学研究科

医学研究科

薬学研究科

工学研究科

農学研究科

人間・環境学研究
科

Course #

Course Title

1

シミュレーション概論

2

連続体力学

大項目1—中項目3—小項目6 計画6—2、大項目3—中項目1—小項目2 計画2—8

第2回京都大学医工連携シンポジウム

日時：平成16年7月2日(金) 講演会：PM1:00-6:00 交歓会：PM6:00-9:00

会場：芝罘会館(新館) 京都市左京区言田近衛町 京都大学医学部別荘内

主催：京都大学医工連携推進協議会

共催：京都市

協賛：京都大学

後援：京都商工会議所、京都産学公連携機構

●申し込み・連絡先：第2回京都大学医工連携シンポジウム事務局
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町5-3
京都大学再生医学研究所 岩田研究室内
TEL: 075-751-4116 FAX: 075-751-4646
E-mail: iwata@frontier.kyoto-u.ac.jp

21世紀・医学の新領域開拓

～医学・工学連携をはじめとした異分野融合の可能性～

■ 開会

挨拶 京都大学副学長 金田 豊裕
主催者代表挨拶 京都大学工学部学部長 荒木 光彦
共催者代表挨拶 京都市市長 柳本 新蔵
来賓挨拶 文部科学省ライフサイエンス課長 戸谷 一夫
協賛者代表挨拶 京都府知事 橋本 正洋
後援者代表挨拶 京都府知事 橋本 正洋

■ 学内医工連携研究経過報告(1)

- 1.細胞・生体機能シミュレーションプロジェクト
京都大学理学部 野間 昭典
京都大学理学部 松田 昌也
- 2.ナノテク材料による医療用イメージングとターゲティング
京都大学理学部 平岡 誠司
- 3.ナノデバイスの研究開発
京都大学理学部 小寺 秀哉

■ 特別講演

「ロボット外科」 京都大学理学部 嶋爪 誠

■ 医工連携の組織化

- 1.医療技術産業戦略コンソーシアムと産学医連携
京都府の会 宅間 豊
- 2.東北大学における医工連携の取り組み
東北大学工学部 佐藤 正明
- 3.産総研における医工連携の取り組み
産総研 コーディネータ 栗山 博
- 4.京研における医工連携の取り組み
京大産学連携推進課 加藤 崇章

■ 学内医工連携研究経過報告(2)

- 1.高分子化学から医療へ
京都大学理学部 岩田 博夫
- 2.運動器疾患治療のためのバイオマテリアルの開発
京都大学理学部 中村 孝志
- 3.非侵襲生体計測および生体情報解析技術の開発
京都大学工学部 小林 佳生

■ 閉会

挨拶 京都大学理学部学部長 本原 佑

■ シーズ展示・交流会

PM6:00-9:00 於 芝罘会館(新館) 山内ホール
主催者代表挨拶 京都大学情報学研究所長 松越 満明
来賓挨拶 京都市工業部産業課長 松澤 和典 京都市議員 市野藤 浩
科学技術振興機構先端技術推進課長 小原 満隆
京都大学医工連携推進機構学長 古山 正雄

大項目1－中項目3－小項目6 計画6－2、大項目3－中項目1－小項目2 計画2－8

出典：京都大学ホームページ

http://www.kyoto-u.ac.jp/notice/05_event/2007/071121_2.htm

◆ 第22回 こころの未来セミナー (Kerry L. Jang)

1. 目的

「こころの未来セミナー」では、心に関するトピックスを取り上げ、幅広いディスカッションを通して、未来に向かうこころのあり方を考えます。

2. 講演者と演題

『精神病理学の行動次元モデル: 行動遺伝学からのアプローチ』

Kerry L. Jang

(ブリティッシュ・コロンビア大学 精神科 教授)

精神病理学では、「行動の次元モデル」にもとづいて人の行動を理解しています。このモデルでは、人の行動パターンは正規分布していて、多くは正常の範囲内に収まり、そこから逸脱したものが精神病理の範疇に入ると予測しています。神経症や不安などの例にはこうした予測に当てはまります。このモデルに行動遺伝学の方法を適用することから、正常行動と異常行動は遺伝子と環境要因の両方が一組となって影響を及ぼしていることがわかってきています。しかし、現在の行動遺伝学のモデルには限界があり、遺伝の影響と環境の影響がどのように変化して異常な行動が現れるのかという疑問に対して答えを出すことはできません。今回の講演では、これまでの行動遺伝学のモデルが抱えるこうした問題を解決する新しい行動遺伝学の研究手法とデータを紹介します。

今回のセミナーは英語で行われます。

日時	平成19年11月21日(水曜日) 午後4時半より午後6時頃まで
場所	芝蘭会館別館 研修室1 http://www.shirankai.or.jp/facilities/access/index.html
受講資格	とくにありません。
受講料	無料
申し込み	不要
問い合わせ先	京都大学こころの未来研究センター http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/index.html e-mail: kokoro の後に @educ.kyoto-u.ac.jp をつけて下さい

大項目1－中項目3－小項目6 計画6－3

出典：京都大学フィールド科学教育研究センターホームページ

平成18年度 全学共通科目「北海道東部の厳冬の自然環境」実習の参加者募集

担当：フィールド科学教育研究センター 安藤 信
 大学院農学研究科森林利用学 長谷川尚史

●実習の目的

北海道の東部・根釧地域は日本、北海道でも特有の気候を持つ。本実習はこのような地域にある京都大学北海道研究林標茶区・白糠区を中心に行く。実習では、厳冬の北方系森林や林業・林産業、自然環境について、山スキーを使った森林観察、積雪・凍土調査、地元産業の見学、などを通して習得することを目的とする。

●実施内容

1. 期間：平成19年2月21日（水）～27日（火）
2. 実施場所：京都大学フィールド科学教育研究センター北海道研究林
 標茶区：〒088-2339北海道川上郡標茶町多和 TEL：015-485-2637 FAX：485-4016
 白糠区：〒088-0322北海道白糠郡白糠町西2条北8-1-10 TEL：01547-2-5701 FAX：9-2037
3. スケジュール：
 - 2月21日（水） ガイダンスと講義「北海道の地形・地質・土壌と気象」「道東の森林」
 - 22日（木） 実習「道東の針広混交林と樹木」と講義「冬季の樹木の識別法」
 - 23日（金） 実習及び講義「パルプ産業の動向とパルプ製造過程」「根釧地方の野生生物と保護」
 - 24日（土） 実習「根釧内陸部の積雪・凍土の観察と冬の森林調査法」と講義「積雪・凍土調査法」
 - 25日（日） 実習「根釧内陸部の広葉樹林と樹木」と討論「道東の厳冬の自然環境」
 - 26日（月） 実習「亜寒帯針葉樹林の自然観察」と討論「道東の森林と樹木」
 - 27日（火） レポート等作成・提出後解散

*なお、実習内容・コースは変更される場合がある。
4. 宿泊場所：2/21～22は白糠区、23～26日は標茶区の学生宿舎および管理棟
5. 集合
 - 日時：2/21（水）15:30（前泊可能）
 - 場所：北海道研究林白糠区管理棟

*白糠への交通はフェリー＋JR（バス）、航空機＋バスなどがある。航空機は先得割引、バーゲンフェア、バースデー割引、ホテル1泊を含んだツアーなど、利用空港によって異なり、かなり格安のものがある。しかし格安便は2ヶ月前に予約する必要がある。旅行条件にも注意が必要。

*利用が多い便については釧路空港（例えば2/20、21の名古屋→釧路便14:10頃着）と白糠駅（2/21の昼間の便）には迎えを出す予定。
6. 費用：10,000円＋α
 食費実費（2/21夕～27朝：食事は自炊）。実習地までの交通費（往復4万円程度）は含まれない。
7. 持ち物
 - ☆参加者は必ず生協等の傷害保険に加入し、現地到着後、緊急時連絡先を報告すること。
 - 傷害保険加入証、保険証またはその写し、防寒を考慮した衣類（例えばスキーの服装）、防寒用手袋、防寒用帽子、着替え、サングラス（ゴーグル）、リップクリーム、日焼け止め、常備薬、小型ザック、水筒（ペットボトル）、タオル、予備食（チョコレートなど）、筆記具など。山スキー及び冬用の長靴は貸与する。

●12月13日（水）18時に農学部総合館N159講義室（北東1階）で説明会を行う。履修者は必ず出席すること。

●応募方法：(1)実習名(2)氏名・所属学部学科・学年(3)連絡先（電話番号及びメールアドレス）(4)ルートと到着日時、到着場所（空港、駅、白糠管理棟）(5)長靴のサイズを長谷川(hase@kais.kyoto-u.ac.jp)まで連絡すること。応募期間は12/14～28。定員は平行して行われる農学部、全学共通の2つの実習併せて15名。定員を超えた場合は基本的に抽選とし、12月中にその結果を連絡する。尚、12/14～23の「バーゲンフェア（2/14～20：名古屋－釧路だと片道13,700）予約受付期間」中に往路の航空券を購入あるいはツアー、フェリー等を手配したもの（要連絡）は払い戻しが困難なため、参加を優先する可能性がある。

平成18年度 森里海連環学実習 A
「芦生研究林ー由良川ー丹後海コース」

京都大学フィールド科学教育研究センター
山下 洋・芝 正己・益田玲爾・西村和雄・上野正博・中西麻美・甲斐嘉晃

●実習の趣旨

京都府の北部を流れる由良川は、京都大学芦生研究林を源流とし若狭湾の西部（丹後海）に注ぐ。本実習では、由良川源流域を中心とした芦生研究林内の森林構造の観察、由良川に沿って上流域から和知、綾部、福知山を經由して河口域までの水質調査、魚類や水生昆虫などの水生生物調査、土地利用様式の調査を行う。さらに、由良川河口沖合の海洋観測と生物調査を実施する。森林域、里域、農地、都市などの陸域の環境が、由良川の水質、生物多様性、沿岸海域の生物環境にどのような影響を与えているかを分析し、森から海までの流域を生態系の複合ユニットとして捉える視点を育成する。

●実施内容

1. 期 間 : 平成18年 8月 7日（月）午前9時京大農学部発
8月11日（金）17時30分京大農学部着
2. 実施場所 : 京都大学フィールド科学教育研究センター芦生研究林
〒601-0703 京都府南丹市美山町芦生
Phone : 0771-77-0321 Fax : -0323
: 京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所
〒625-0086 京都府舞鶴市長浜無番地
Phone : 0773-62-5512 Fax : -5513
3. 宿泊場所 : 京都大学フィールド科学教育研究センター芦生研究林宿泊棟
京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所宿泊棟
連絡先は上記に同じ
4. 集合場所 : 8月 7日（月）午前8:45 農学部本館北東角（フィールド科学教育研究センター事務室周辺）に集合。
集合時間に間に合わないか参加できなくなった受講生は、舞鶴水産実験所（0773-62-5512）に連絡してください。
5. スケジュール :
8月 7日（月） ガイダンス（バスの中）、実習「芦生研究林の観察」、講義「芦生研究林の構造」（芦生泊）
8月 8日（火） 実習「由良川上・中流域調査」（舞鶴泊）
8月 9日（水） 実習「由良川下流・河口調査、大江山観察」（舞鶴泊）
8月10日（木） 実習「水生生物、水質分析」、調査結果の整理・解析（舞鶴泊）
8月11日（金） 調査結果のまとめ・発表、レポート作成
*なお、実習内容・コースは変更される場合があります。
6. 費 用 : 約8,000円
これに含まれるのは宿泊費、食費などの実費(8/7~8/11)のみ
7. 募集人員 : 16名
8. 7月4日午後6時半よりフィールド科学教育研究センター大会議室（農学部総合館北東角5階：N581）において説明会をするので参加者は必ず出席すること
9. 持参すべきもの
運動靴（濡れてもよい靴）、山歩きのできる靴（長靴かトレッキングシューズ）、カップ、帽子、軍手、作業着

大項目 1 - 中項目 4 - 小項目 1 計画 1 - 1

出典：大学機関別認証評価 自己評価書 平成 19 年 6 月 京都大学

観点 7-1-2： 学習相談、助言（例えば、オフィスアワーの設定、電子メールの活用、担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

学部新入生は学部・学科等を単位として 50 人程度のクラスに分けられており、殆どの学部において各クラスにクラス担任が置かれ、学生が教員の助言を受けやすい制度が導入されている。また大学院研究科等ではチューター制を導入する部局もある。オフィスアワーの設定については、教育学部・同研究科や経済学部・同研究科等が部局として取り組んでいるほか、高等教育研究開発推進機構の全学共通教育教務情報システム（KULASIS）では、約 200 名の全学共通科目担当教員のオフィスアワーが登録されている（表 7-1）。このほか電子メールは KULASIS と各部局で活用され、教員のオフィシャルメールアドレスは学生に周知され、学生が教員に直接的なコンタクトを取りやすい環境が作られている。

このほか国際交流センターは、主として留学生を対象に、オフィスアワーを設定して学習相談等に応じている。また薬学部・同研究科は新入生を対象とした宿泊形式の研修制度を導入し、きめ細かな助言体制を導入している。医学部・同研究科では医学教育推進センターに相談室を設け、専任の教員が常時対応する体制がとられている。

表 7-1

各学部・研究科等の担任・チューター制とオフィスアワーの状況

【学部】											
学部	総合人間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	農
クラス担任・チューター制	○	○	○	×	×	○	○(一部学科)	○	○(一部学科)	○(一部学科)	○(一部学科)
オフィスアワーの設定	×	×	○	×	○	×	×	×	○(一部学科)	○(一部学科)	○(一部学科)

【研究科等】											
研究科	文学	教育学	法学	経済学	理学	医学	薬学	工学	農学	人間・環境学	
チューター制等	×	○(指導教員、留学生用学生チューター)	○(一部専攻)	○	○	○	○(留学生対応)	×	○(外国人留学生チューター)	○(一部留学生)	
オフィスアワーの設定	×	○	○(一部専攻)	○	○	○(一部専攻)	×	×	×	×	

研究科	エネルギー科	アジア・アフリカ地域研究	情報学	生命科学	地球環境学	公共政策	経営管理
チューター制等	○	○	×	○(指導教員制)	○	○	○
オフィスアワーの設定	×	×	×	×	○	×	○

【分析結果とその根拠理由】

学部新入生が配属される“クラス”には多くの学部で担任が配置されているが、その活用は学部によって異なる。オフィスアワーは表 7-1 の通りの部局の対応の他に、高等教育研究開発推進機構に約 200 人の全学共通科目担当教員のオフィスアワーの登録がある。電子メールの活用も含め、全ての学部・研究科等には学生への相談・助言体制が整備されており、履修相談の他、専攻の選択や就職を含む進路相談に対応している。ただし、これらの助言制度だけを切り離した適切性の検証は難しく、客観的なデータによりこれらの制度の適切性を自己点検・評価している部局はアジア・アフリカ地域研究研究科のみである。また法学部では学生の自主性を尊重する観点から、学生が教員にコンタクトをとる制度は多様に導入されているが、教員が学生にアプローチする体制は控えている。以上を総合し、学生への学習等に関する助言制度は、各部局の事情に沿って多様に導入され、概ね有効に機能していると考えられる。

大項目 1 - 中項目 4 - 小項目 1 計画 1 - 5

出典：京都大学国際交流センターホームページ

京都大学国際交流センター

ようこそ、京都大学国際交流センターへ(in English)

〒606-8501 京都市左京区吉田本町(学生部1階)
Phone: 075(753)2543 FAX:075(753)2562

■ 目的と役割

■ 学生生活

■ 日本語教育

■ 海外留学のための指導助言

■ 国際交流関連情報

■ 留学生のための情報

■ スタッフ

■ 国際交流会館

■ 外国人留学生、研究者のための生活適応相談

■ 自己点検・評価報告書

■ 留学生課

■ 京大生のための留学情報

■ KI-ZU-NA

[[留学情報へ](#) | [Kyoto University Home Page](#)]

目的と役割

[[前へ](#) | [先頭へ](#) | [次へ](#)]

京都大学における国際交流の理念を具体化させる機構として「国際交流センター」が発足したのは1988年12月のことでした。このセンターを母体として、1990年6月、学内共同利用研究施設として「留学生センター」が発足しました。そして、2005年4月、京都大学国際交流推進機構の発足に伴い、その支援部局として、「国際交流センター」があらためて組織されました。現在当センターでは、国際的学術交流を支援するため、次のような活動を行っています。

- 外国人留学生に対する日本語ならびに日本文化、日本事情に関する教育
-
- 外国人留学生に対する修学及び生活上の指導助言
-
- 海外留学を希望する日本人学生に対する修学及び生活上の指導助言
-
- 外国人研究者の日本語習得に関する支援及び生活適応上の助言
-
- その他全学的な学生及び研究者交流に関し必要なこと
-
- 以上の他、国際交流推進機構の行う業務の支援を行う

大項目 1 - 中項目 4 - 小項目 1 計画 1 - 5

出典：京都大学ホームページ


[京都大学](#) | [大学の紹介](#) | [研究開発](#) | [教育](#) | [入学案内](#) | [学生生活](#) | [お知らせ](#) | [検索](#) | [サイトマップ](#)

[訪問者別インデックス](#) | [受験生の方](#) | [研究者の方](#) | [在学生・教職員の方](#) | [社会人・一般の方](#) | [卒業生の方](#) | [企業の方](#)

Kyoto University

[トップ](#) > [学生生活](#) > [相談窓口](#) | [メールによる学生生活相談](#)

相談窓口

メールによる学生生活相談

- 学生部等担当窓口
-
- 各学部・研究科担当窓口
- ・卒業証明書の発行について
-
- 困ったときの相談窓口
-
- ハラスメント
-
- メールによる学生生活相談
-

メールによる学生相談

学生センターでは、学生生活に関する相談や質問をメールにより受け付けています。

- ◆ 相談の際の個人情報他目的には使用しません。
- ◆ 相談内容の秘密は守ります。
- ◆ 相談内容によっては、回答できないものや他の相談窓口をご紹介します場合があります。
- ◆ 相談のメールには必ず学生番号と氏名を明記してください。

(相談受付アドレス) wsens565@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

関連リンク

- ◆ [工学研究科\(学生相談室\)](#)

問い合わせ先：学生センター生活担当
TEL 075(753)2533

大項目 1 - 中項目 4 - 小項目 1 計画 1 - 6

Mini 留学フェア～留学のススメ～

■ 平成18年度「留学のススメ」開催結果



月	日		開催予定イベント	参加者	講演者
4	4(火) -7(金)		国際交流センター新入生説明会	1291	センター教員
5	29(月) 30(火) 31(水)	1	International Week 学部交換留学 語学留学 インターンシップ	77 62 30	森先生 生協 AIESEC IAESTE
6	1(木) 2(金)		文系大学院 理系大学院	43 61	河合先生 青谷先生
6	8(木) 15(木) 22(木)	2	先輩体験談 交換留学 KCJS&SCTI 大学院留学	44 20 46	交換留学体験者 KCJS聴講者(河合先生の紹介) 長期海外留学体験者
7	20(木)	3	海外留学安全説明会	26	森先生(上村さん)
8	—	—	—		
9	—	—	—		
10	23(月) 24(火) 31(火)	4	TOEFL 説明会 国際ボランティア説明会 (国立シンガポール大学への留学説明会)	21 35 30	CIEE CIEE 国立シンガポール大学
11	15(水) 28(月) 30(水) 15(水) 21(火)	5 6 - -	KUINEP生(&日本人学生)による 協定校紹介 (アメリカ文系大学院留学) (フランス留学フェア)	18 10 6 (不明) 25	ローザンヌ大学KUINEP生 ユトレヒト大学KUINEP生、交換留学経験者 ライデン大学KUINEP生、交換留学経験者 河合先生(青谷先生の授業内) フランス大使館
12	8日(金)	-	(フランス留学フェア)	12	フランス大使館
1	—	—	—		
2	—	—	—		
3	—	—	—		
合計人数				566	

大項目 1 - 中項目 4 - 小項目 2 計画 2 - 1

平成18年度 就職関連ガイダンス等のべ参加者数

平成19年3月31日現在

【学生種別別】

行 事 名	合 計	学 部	修 士	専 門 職	博 士	そ の 他
就職ガイダンス(全6回)	1,692	780	865	25	19	3
企業ガイダンス(全15回)	3,481	1,853	1,477	97	46	8
キャリアデザイン講座(全3回)	294	193	88	9	4	0
合同企業説明会(全4回、計7日)	2,806	1,319	1,338	81	58	10
公務員関係ガイダンス等(全14回、計16日)	912	433	216	27	27	209
就職セミナー(全41回)	1,884	976	826	49	25	8
業界研究セミナー(全3回)	151	94	49	5	2	1
内定者による相談会(全24回)	60	34	17	7	2	0
エントリーシート添削(全19日)	118	66	47	3	2	0
公務員試験等模擬面接(全12日)	54	27	22	1	2	2
模擬面接(全17日)	113	69	38	2	2	2
SPI模擬対策講座(1回)、SPI模擬試験(全2回)	270	84	173	6	5	2
国家公務員I種採用試験対策講座(3講座、計11日)	68	40	22	2	2	2
マスコミ就職講座(2講座、計14日)	89	64	24	0	1	0
弁理士試験対策講座(1講座、計35日(無料ガイダンス含む))	128	61	47	1	15	4
就職相談室(全185日)	672	339	242	13	47	31
計	12,792	6,432	5,491	328	259	282

【注】 単位は人(以下同じ)。上表の「その他」は、院非正規生、他大学生、既卒者及び不明者。

【男女別】・【日本人学生/留学生別】

行 事 名	合 計	男	女	日本人学生	留学生
就職ガイダンス(全6回)	1,692	1,259	433	1,651	41
企業ガイダンス(全15回)	3,481	2,504	977	3,398	83
キャリアデザイン講座(全3回)	294	188	106	284	10
合同企業説明会(全4回、計7日)	2,806	2,092	714	2,747	59
公務員関係ガイダンス等(全14回、計16日)	912	625	287	912	
就職セミナー(全41回)	1,884	1,343	541	1,842	42
業界研究セミナー(全3回)	151	115	36	148	3
内定者による相談会(全24回)	60	46	14	53	7
エントリーシート添削(全19日)	118	76	42	114	4
公務員試験等模擬面接(全12日)	54	35	19	54	
模擬面接(全17日)	113	78	35	110	3
SPI模擬対策講座(1回)、SPI模擬試験(全2回)	270	175	95	260	10
国家公務員I種採用試験対策講座(3講座、計11日)	68	56	12	68	
マスコミ就職講座(2講座、計14日)	89	48	41	88	1
弁理士試験対策講座(1講座、計35日(無料ガイダンス含む))	128	102	26	125	3
就職相談室(全185日)	672	444	228	643	29
計	12,792	9,186	3,606	12,497	295

大項目2-中項目1-小項目1 計画1-1、大項目3-中項目1-小項目6 計画6-1

出典：「京都大学概要 2007」

国際交流



海外交流拠点等位置図

(平成19年5月1日現在)

部局名	海外拠点名	国(地名)	設置年
1 経済学研究科	附属上海センター上海支所	中華人民共和国(上海)	2003
2 理学研究科	バンドン工科大学KAGI21サテライト・オフィス	インドネシア共和国(バンドン)	2003
3 理学研究科	チュラロンコン大学KAGI21サテライト・オフィス	タイ王国(バンコク)	2004
4 理学研究科	アフリカ人類学・生物学研究フィールドセンター	タンザニア連合共和国(アルシヤ)	2006
5 理学研究科	京都大学アフリカ類人猿調査拠点 (Kyoto University African Ape Expedition)	タンザニア連合共和国(キゴマ)	1965
6 工学研究科	京都大学-清華大学環境技術共同研究・教育センター	中華人民共和国(深圳)	2005
7 農学研究科	東北タイ農業環境プロジェクト事務所	タイ王国(コンケン)	1996
8 エネルギー科学研究科、エネルギー理工学研究所	環境調和型エネルギー交流拠点	タイ王国(バトムターニ)	2003
9 地球環境学学舎	京都大学大学院地球環境学舎教育研究拠点	ベトナム社会主義共和国(ハノイ)	2005
10 地球環境学学舎	京都大学大学院地球環境学舎教育研究拠点	ベトナム社会主義共和国(フエ)	2006
11 エネルギー理工学研究所	国際新エネルギー機構・タイ拠点	タイ王国(バトムターニ)	2003
12 生存圏研究所	インドネシアサテライトオフィス	インドネシア共和国(ボゴール)	2004
13 生存圏研究所	赤道大気レーダー	インドネシア共和国(プキティンギ)	2001
14 生存圏研究所	スマトラアカシア林研究拠点	インドネシア共和国(スマタラ)	2005
15 防災研究所	シアトル・サテライト	アメリカ合衆国(シアトル)	1996
16 霊長類研究所	ボソウ・ニンバ研究拠点	ギニア共和国(ボソウ)	1976
17 霊長類研究所	ルボンド鳥子パンジー研究プロジェクト	タンザニア連合共和国(ルボンド)	2000
18 霊長類研究所	カリンス森林調査プロジェクト	ウガンダ共和国(ブシェニ)	1997
19 東南アジア研究所	バンコク連絡事務所	タイ王国(バンコク)	1963
20 東南アジア研究所	ジャカルタ連絡事務所	インドネシア共和国(ジャカルタ)	1970
21 東南アジア研究所、アジア・アフリカ地域研究研究科	ヤンゴン・フィールド・ステーション	ミャンマー連邦(ヤンゴン)	2003
22 東南アジア研究所、アジア・アフリカ地域研究研究科	ピエンチャン・フィールド・ステーション	ラオス人民民主共和国(ピエンチャン)	2003
23 東南アジア研究所、アジア・アフリカ地域研究研究科	マッカサル・フィールド・ステーション	インドネシア共和国(マッカサル)	2003
24 アジア・アフリカ地域研究研究科	エチオピア・フィールド・ステーション	エチオピア連邦民主共和国(アジスアベバ)	2003
25 アジア・アフリカ地域研究研究科	カメルーン・フィールド・ステーション	カメルーン共和国(ドンゴ)	2003
26 アジア・アフリカ地域研究研究科	ケニア・フィールド・ステーション	ケニア共和国(ナイロビ)	2003
27 アジア・アフリカ地域研究研究科	ザンビア・フィールド・ステーション	ザンビア共和国(ルサカ)	2003
28 アジア・アフリカ地域研究研究科	タンザニア・フィールド・ステーション	タンザニア連合共和国(ダルエスサラーム)	2003
29 生態学研究センター	キナバル山公園拠点	マレーシア(コタキナバル)	1995
30 生態学研究センター	テラマコット保護区拠点	マレーシア(サンダカン)	2003
31 生態学研究センター	サワク州ランピル国立公園熱帯雨林生物多様性研究拠点	マレーシア(ミリ)	1992
32 産官学連携センター	清華大学科技园内京都大学リエゾンオフィス	中華人民共和国(北京)	2006

大項目2-中項目1-小項目2 計画2-1、大項目3-中項目1-小項目3 計画3-6

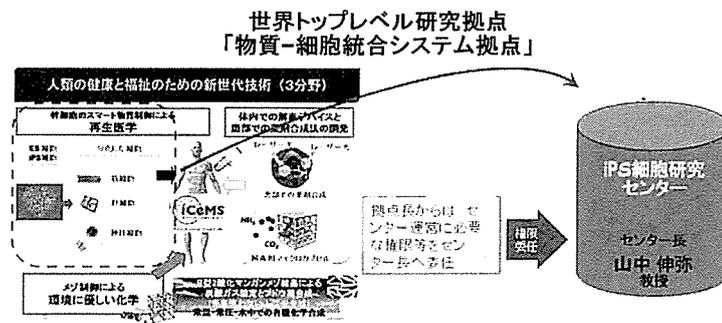
出典：京都大学ホームページ

物質-細胞統合システム拠点 iPS細胞研究センターを設置

センター設置について

IPS細胞研究を推進する我が国における中核研究組織

1. 世界トップレベル研究拠点(WPI)「物質-細胞統合システム拠点」に、iPS細胞研究を推進する我が国における中核研究組織として「iPS細胞研究センター」を設置。
2. 拠点が目指す3つの研究分野の一つであるiPS細胞を含む幹細胞(ES細胞、iPS細胞など)の制御による再生医学の基盤技術開発に関する研究を強力に加速。
3. 再生研、医学研究科等との連携によるiPS細胞の臨床応用に向けた研究の推進。



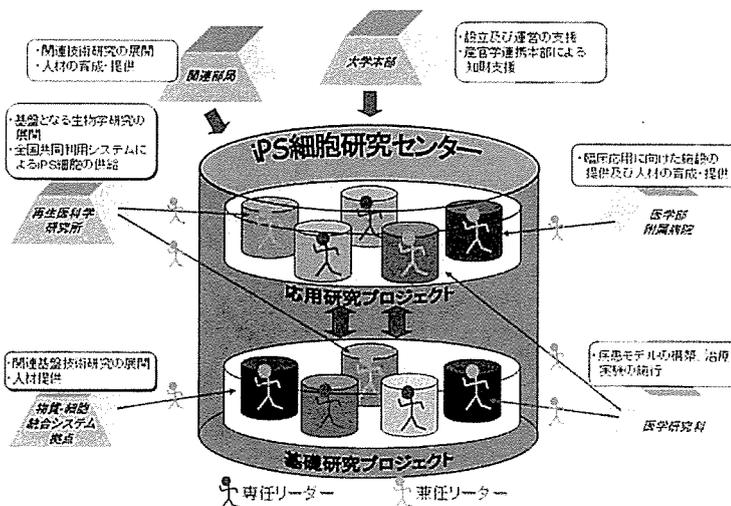
設置日：平成20年1月22日

構成：センター長、副センター長、研究チーム

- センター専任チーム
教授、准教授等の若手研究者、研究支援員、事務員、ポスドク等で構成
- センター兼任チーム
再生医科学研究所、医学研究科、薬学研究科等の研究者が兼任でセンターに参画

運営：センター長のトップダウンが基本。また、研究員の雇用はWPIにより制度化した柔軟な雇用形態を活用。

iPS細胞研究センターの活動を支える京都大学の仕組み



大項目2-中項目1-小項目2 計画2-2、大項目3-中項目1-小項目1 計画1-7

出典：京大生存基盤科学研究ユニットホームページ | <http://iss.iae.kyoto-u.ac.jp/iss/jp/gaiyo.htm>

京大生存基盤科学研究ユニット
Institute of Sustainability Science, Kyoto University

日本語
English

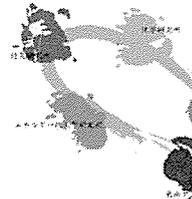
TOP
What's New
ISS
イベント
研究紹介
経歴
出版物
オフィス
お知らせ
アクセス
リンク

ISS紹介

挨拶(ユニット長・部長・理事) | 開所式 | 概要 | 組織 | 企画戦略ディレクターからのメッセージ

1. 生存基盤科学研究ユニット

生存基盤科学研究ユニットは、人類の生存基盤に深くかつ広範囲にかかわる社会のための科学 (Science for society) シンズ、科学技術立国日本の将来を担う新しい技術、産業の創出、優秀な若手研究者の育成につながる先端科学 (Frontier science) シンズのシンズをインキュベートすることを目的とし、宇治地区4研究所と東南アジア研究所共通の組織です。



既存の学問体系に縛られることなく、研究所という組織のあり方に基づき、新しいテーマにフレキシブルに対応し、

- (1) 異分野同士の接点の戦略的創出
- (2) 創造的融合研究の具現化・推進
- (3) 多様な分野における先進的研究の総合化

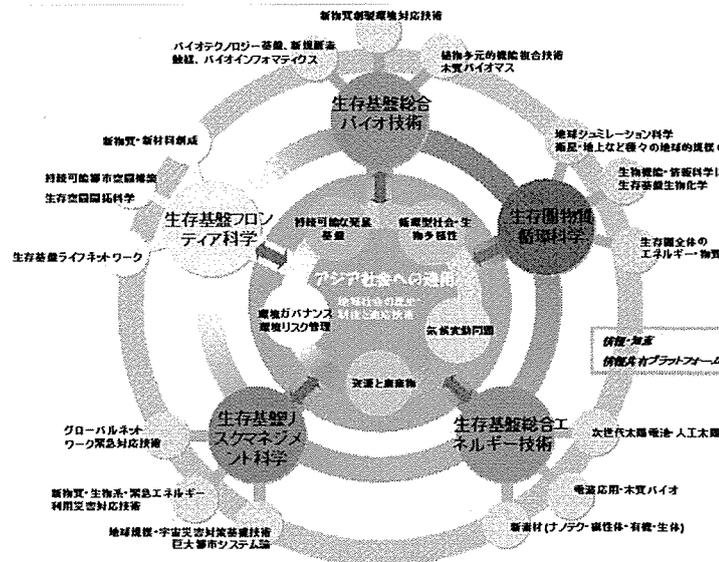
を推進します。

2. 生存基盤科学研究ユニットの機能

生存基盤科学研究ユニットは生存基盤科学とは、人類の生存の危機に立ち向かい、その生存基盤を守り育て、持続可能なための、自然科学を中心とした新たな生存圏を切り開く異分野融合・統合型の次世代型総合科学である。この新たな創生のため、関係部局で既に進行中のいくつかのCOEプログラムに代表される先端科学の中心を形成するポテンシャル類生存のための必須科学としてさらに高めるために、以下の機能を果たす。

- 1) 融合・総合研究のインキュベート: 公募により斬新な融合研究および総合研究の切り口を効率よく抽出し、これらの研究積極的にインキュベートする。
- 2) 教育: 当面の教育プログラムとして、東大サステナビリティ学との連携プログラムの一環として、地球環境学舎の情で、大学院修士課程での教育に携わる。
- 3) 融合・総合化促進事業: 融合・総合化促進事業として、以下の機能を果たす。
 - a) 研究成果紹介: 注目すべき参加研究所での研究を全体に対して紹介し、異分野間での共同研究発掘を行う。
 - b) 公開ゼミ: ユニットのセミナー室を使い、各研究室のゼミを公開で行う場を提供する。
 - c) 研究施設の有効活用: 参加研究所共同利用可能施設(大型装置、特殊装置、会議室含む)の調査、共同利用方法(利用の調整など)を行う。
 - d) 情報発信: ニュースレターの発行(広報活動)、ユニットのHP運営(参加研究所全体を代表した、より広い範囲への発信)。
 - e) 大型プロジェクト提案: 大型プロジェクト提案(複数可)の際のアンブレラ組織としての機能(企画・立案機能も含む)。
 - f) 既存海外ネットワーク(郵局ベース・研究室ベース・個人ベース)の組織化、既存海外拠点(東南アジア研究所のバン連絡事務所など)のさらなる活用などによる国際拠点の拡充を目指す。
- 4) 若手研究者の育成: 最先端の高度な研究ポテンシャルを有する多様な研究群の間で、大きく異なる分野間の創発的し、生存基盤科学の根幹に関わるフロンティアサイエンスの創生を担う若手研究者を育成する。

3. 生存基盤科学に資する研究課題の例



大項目2－中項目1－小項目3 計画3－1、大項目3－中項目1－小項目3 計画3－3

出典：京都大学ホームページ

トピックス

Back Number 2005

> 2005 年度 > 2004 年度 > 2003 年度 > 2002 年度 > 2001 年度

◆2006年3月16日

京都大学附置研究所・センター主催シンポジウムを開催

京都大学に附置された17の研究所および研究センター主催によるシンポジウムが、読売新聞社後援により東京・品川インターシティホールにて開催されました。

総合テーマ「京都からの提言－21世紀の日本を考える(第1回)」のもと、午前は「危機をいかに乗り切るか？」をサブテーマに、河田 恵昭 防災研究所所長が「首都直下型地震の被害と減災戦略」、佐和 隆光 経済研究所所長が「日本の『構造改革』－何処をどう変えるべきか」と題した講演を行いました。

午後からは「東アジアといかに向き合うか？」をサブテーマに、金 文京 人文科学研究所所長が「東アジア共同体は可能か？－日・中・韓三国の歴史問題をめぐって」、濱下 武志 東南アジア研究所教授が「躍動するアジアと21世紀の日本－日本はアジアを越えられるか」と題した講演を行いました。

そのあと、田中 耕治 東南アジア研究所所長の司会によるパネルディスカッション「東アジアと日本」が、午前・午後の講演者4名に浅田 彰 経済研究所助教授、清川 雪彦 一橋大学経済研究所教授、斎藤 治 読売新聞社調査研究室研究員を加えて行われ、各パネリストが会場から回収された質問に応えました。1時間の短かいディスカッションでしたが、今後はより複合的・重層的アプローチにより、東アジアとの総合的な知的ネットワークを構築し、東アジア全体の持続可能な学問を展開していくことが提言されました。

なお、このシンポジウムは今後10年間に全国の主要都市をまわる予定です。

公開講座

◆京都大学春秋講義



春秋講義は、1988(昭和63)年秋から月曜日と水曜日に分かれて開講されています。月曜講義は「現代と哲学」(1988年秋)、「先端工業技術の現在」(1989年春)といった共通テーマを設けて行うのに対して、水曜講義は講師がそれぞれ時宜を得たテーマについて講義を行うものです。

当初は掘り下げた専門的講義を目的としたものでしたが、最近では一般の方々に参加していただきやすい分かりやすい講義になってきています。

■要項

会場 京都大学百周年時計台記念館
百周年記念ホール

市バス
・系統 31・201・206
「京大正門前」下車

・系統 3・17・203
「百万遍」下車

京阪鴨東線
「出町柳駅」下車、徒歩20分

講義時間 各日18時30分～20時(開場18時)

受講定員 月曜講義・水曜講義とも500名

受講資格 特に問いません

受講料 無料

申し込み 不要(各講義とも当日先着順)

問合せ先 京都大学総務部社会連携推進課
〒606-8501 京都市左京区吉田本町 TEL 075-753-2285



大項目 2 - 中項目 1 - 小項目 4 計画 4 - 1

【部局における平成18年度点検・評価実績】

評価の種類		実施部局数
① 自己点検・評価		15
うち	教育活動に関する評価を行っている	9
	研究活動に関する評価を行っている	9
② 外部評価		5
うち	教育活動に関する評価を行っている	1
	研究活動に関する評価を行っている	2
③ 学生による授業評価		4
④ その他		2

【部局における平成19年度点検・評価実績】

評価の種類		実施部局数
① 自己点検・評価		19
うち	教育活動に関する評価を行っている	15
	研究活動に関する評価を行っている	14
② 外部評価		11
うち	教育活動に関する評価を行っている	8
	研究活動に関する評価を行っている	7
③ 学生による授業評価		5
④ その他		3

大項目 2 - 中項目 1 - 小項目 4 計画 4 - 1

出典：京都大学広報 No. 605

全学教育シンポジウム「学部教育・大学院教育の質の改善と自己点検・評価」を開催

9月1日(木)・2日(金)の両日、兵庫県立淡路夢舞台国際会議場において、教職員229名の参加を得て、「学部教育・大学院教育の質の改善と自己点検・評価」をテーマとする全学教育シンポジウムを開催した。

このシンポジウムは1泊2日の討論集会の形で、参加者が教育について全学的な議論や意見を交わすことにより共通理解を深め、今後の教育の改善・充実に資するとともに、部局の枠を越えた教職員の交流の場となることを目指して、平成8年から開催され、今回が第9回目となる。

今回は、高等教育研究開発推進機構と大学評価委員会の共催とし、中期計画や大学評価の基準・観点を念頭におきながら、教育の質の改善をどのように具体化するかについて検討するとともに、質の高い

自己点検・評価を練り上げていくため、各部局の検討・改善状況や経験を交流し、相互理解を深めることとした。

シンポジウムは、高等教育研究開発推進機構長丸山正樹教授の司会進行により、初日は丸山機構長と金田章裕理事による趣旨説明の後、尾池和夫総長に



全体会議での尾池総長の基調講演

よる挨拶および基調講演「京都大学を取りまく状況さまざま」に始まり、今回のシンポジウムのテーマに関連する林哲介教授の基調報告に続き、丸山機構長から問題提起があった。

その後、以下の6テーマに分かれ、問題提起を踏まえた分科会討論が行われ、夕食後も引き続き、分科会討論及び全体でのフリー討論が夜半まで展開された。

- ①学部専門教育・全学共通教育のリエゾン：理系の場合
- ②学部専門教育・全学共通教育のリエゾン：文系の場合

- ③2006年問題を視野に入れた教育課程の改善
- ④学力差の拡がりにどう対応するか
- ⑤(自己点検・評価ワークショップ) 学部教育・大学院教育の自己点検・評価に向けて
- ⑥(自己点検・評価ワークショップ) 研究評価をどう考えるか

2日目は、各分科会から前日の分科会討論の報告があり、最後に全体討論が行われた。

今回のシンポジウムでは来るべき認証評価に向け、教育評価のあり方、更には各部局の進捗状況等について終始活発な議論や意見交換がなされ、盛会のうちに終了した。

大項目 2 - 中項目 2 - 小項目 1 計画 1 - 1

出典：京都大学ホームページ

会議報告

役員会 第32回 平成17年4月18日(月曜日)開催

■別紙

重点施策定員の措置に関する基本方針

平成17年1月31日開催の役員会において決定された「今後の人件費・定員管理の在り方についての基本方針」の趣旨に則り、大学の発展に資する重点施策を実施するための教員の重点施策定員について、平成18年度から平成21年度までの措置に関し、以下のように基本方針を取りまとめる。

1. 基本的な考え方

京都大学としてこれまでの教育研究水準を維持しつつ、新しい教育研究やプロジェクトに取り組んでいくため、全学的に推進すべきと判断された大学の発展に資する重点施策のうち真に必要なものに対して、役員会において重点施策定員を措置する。

2. 配分の検討

基本的に「概算要求関連」及び「概算要求関連以外」の区分により、役員会において重点施策とされた構想について検討し、具体的な措置を決定する。

(1) 概算要求関連

概算要求関連事項については、当該年度の概算要求の基本方針に基づき、大学の発展に資する重点施策であると考えられる構想について、企画委員会及び財務委員会における概算要求事項に係る審議並びに、概算要求の進捗状況を踏まえつつ、役員会において検討する。

(2) 概算要求関連以外

上記(1)以外の事項のうち、中期目標・中期計画の趣旨等を勘案した上で、大学の発展に資する重点施策と考えられるものについて、役員会において検討する。

3. 運用方法

(1) 教員区分について

教授・助教授等の教員区分については、それぞれの構想ごとの必要性を勘案しつつ決定する。

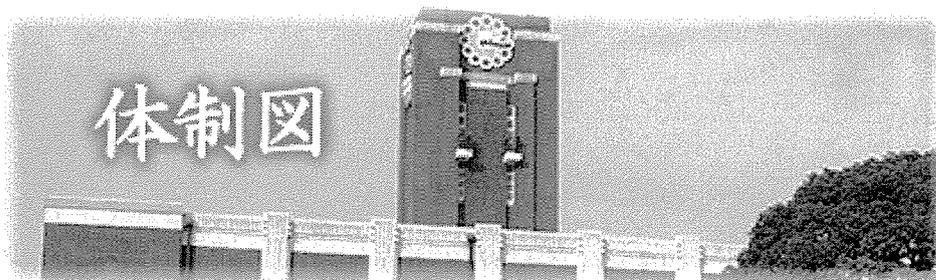
(2) 時限について

重点施策定員には原則として時限を付すものとする。具体的な時限については、各構想の内容に応じて検討する。

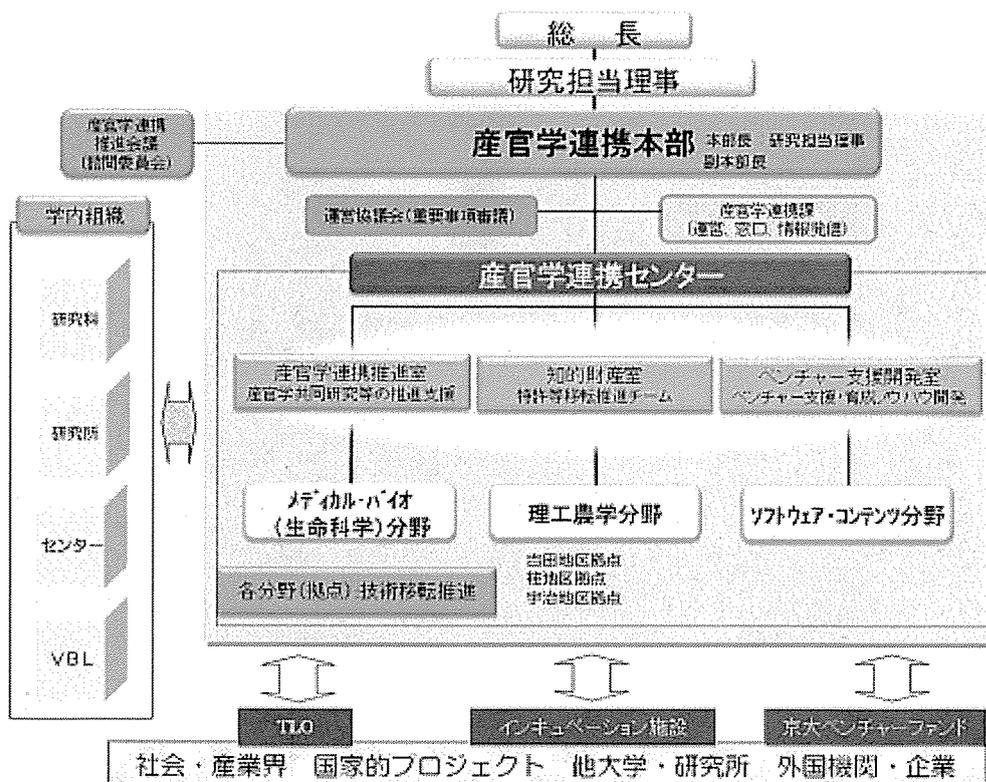
大項目 2 - 中項目 2 - 小項目 8 計画 8 - 4

出典：京都大学産官学連携本部ホームページ

http://www.saci.kyoto-u.ac.jp/?page_id=76



産官学連携本部の統括のもと、産官学連携センターが産官学連携の推進、知的財産の確保と活用、ベンチャーの育成・支援等の全学的な推進支援業務を分野の特徴を生かして実施するとともに、学内外の関連組織とも連携・協力して、本学の知的資産の効果的・効率的な社会還元を図ります。



大項目 2 - 中項目 2 - 小項目 8 計画 8 - 5

出典：京都大学情報環境機構ホームページ

